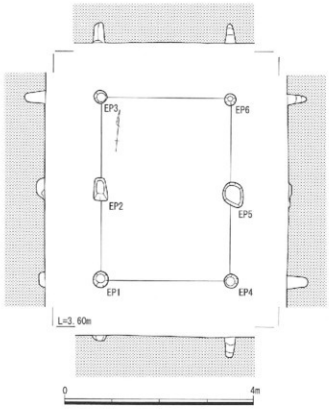
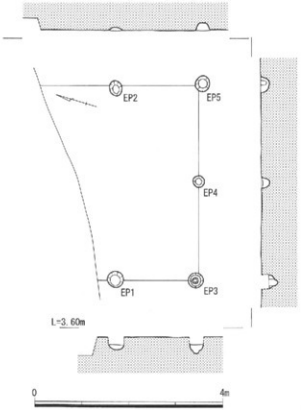


第180図　Ⅰ地区 SA1024遺構実測図



第181図　Ⅰ地区 SA1062遺構実測図

cmを測る。遺物はEP1・3～6から須恵器供膳具，土師質土器片・鍋，黒色土器椀（A類），瓦器椀，備前陶器片・擂鉢，鉄滓が出土。遺構の年代は，出土遺物の年代に幅があり特定は難しい。

掘立柱建物62号（Ⅰ地区　SA1062）

（第181図）

Ⅰ－5区西部，m・n10・11グリッドに位置する。北は調査区外に延びる。東西2間（4.2m）南北2間以上（3.4m以上）床面積14.3㎡以上，5基の柱穴をもつ側柱建物で，現存部長軸方位はN73°Eを向く。柱穴は円形を呈し，径24～34cm，深度6～34cmを測る。出土遺物は皆無である。

掘立柱建物25号（Ⅰ地区　SA1025）

（第182・183図）

Ⅰ－6区西部，o・p13・14グリッドに位置する。東西2間（3.6m）南北2間（4.6m）床面積16.6㎡，8基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はN3°Wを向く。柱穴は円形または不整円形・隅丸方形を呈し，径28～44cm，深度11～64cmを測る。

遺物はEP1～3・6～8から土師質土器片・椀・杯・羽釜，瓦器椀，須恵質土器貯蔵具，鉄製品片，鉄滓が出土。491はEP6の出土遺物で，土師質土器羽釜。口縁は高さを保つものの鍔部と近接し，境に沈線を1条巡らせる。15世紀代とみられる。出土遺物に年代幅があり，遺構の年代決定は難しい。

掘立柱建物40号（Ⅰ地区　SA1040）

（第184・185図）

Ⅰ－6区東部中央，n・o15・16グリッドに位置し，北東は調査区外に延びる。東西2間（2.6m）南北2間（4.0m）床面積10.2㎡，6基の柱穴をもつ掘立柱建物で，建物主軸はN23°Eを向

く。柱穴は円形または楕円形を呈し，径26～42cm，深度11～38cmを測る。

遺物はEP１～５から土師質土器片，瓦器椀・皿，青磁碗が出土。492・493はEP１の出土遺物で，ともに瓦器皿。外面は口縁に強いヨコナデを施し，体底部にかけて明瞭な指頭圧痕を残す。内面は体部に横位の粗いヘラミガキ，底部に粗い平行ヘラミガキ暗文を施す。炭素吸着は良好。やや深みのある体部をもち，外面にヘラミガキを伴わないこと，内面の横位ヘラミガキと平行ヘラミガキ暗文がのこることから，和泉型瓦器Ⅲ－３期に併行するとみられ，13世紀前葉の年代が与えられる。

掘立柱建物41号（Ⅰ地区　SA1041）（第186図）

Ⅰ－６区東部中央，o・p15・16グリッドに位置する。東西１間（2.2m）南北２間（3.6m）床面積7.9㎡，６基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はN４°Eを向く。柱穴は不整円形を呈し，径28～42cm，深度22～44cmを測る。遺物はすべてのEPでみられ，土師質土器片・鍋，瓦器椀，須恵質土器貯蔵具が出土。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀が出土することから13世紀頃と考えられる。

掘立柱建物26号（Ⅰ地区　SA1026）（第187図）

Ⅰ－７区西部南端，h・i18グリッドに位置する。東西２間（2.2m）南北１間（2.1m）床面積4.6㎡，６基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はN82°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径34～46cm，深度10～53cmを測る。遺物はすべてのEPでみられ，土師質土器片・杯（回転糸切りほか）・皿（回転糸切りほか），瓦器椀，溶解炉壁が出土。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀が出土することから13世紀頃と考えられる。

掘立柱建物27号（Ⅰ地区　SA1027）（第188図）

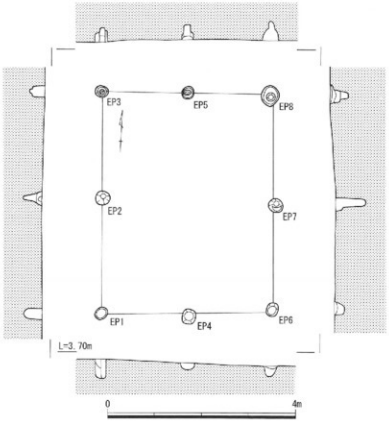
Ⅰ－７区西部南側，i・j17・18グリッドに位置する。東西２間（4.5m）南北２間（3.8m）床面積17.1㎡，８基の柱穴をもつ掘立柱建物で，建物主軸はN90°WEを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径25～42cm，深度14～61cmを測る。

遺物はEP１・３・４・６～８から土師質土器片・杯（回転糸切りほか）・皿（回転糸切りほか）・羽釜，瓦器椀，鉄釘が出土。494～496はEP７の出土遺物で，すべて土師質土器供膳具。494は皿，495・496は杯。底部外面に回転糸切り痕を残す。遺構の年代は，小片ながら和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀が出土することから13世紀頃と考えられる。

掘立柱建物28号（Ⅰ地区　SA1028）（第189図）

Ⅰ－７区西部中央，k・l18・19グリッドに位置する。東西２間（3.7m）南北２間（4.3m）床面積16.0㎡（庇部含めて東西３間（4.6m）19.8㎡），12基の柱穴をもつ東庇付きの掘立柱建物で，建物主軸はN82°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径14～46cm，深度10～68cmを測る。

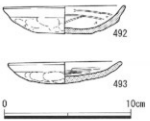
遺物はEP１・３～７・９～12から土師質土器片・杯（回転糸切りほか）・皿（回転糸切り）・鍋・土錘，瓦器椀，白磁碗が出土。497は白磁碗の底部。底部外面は削り出しによって高台をつくるが，高台内側のケズリは浅い。外面残存部は露胎。大宰府分類白磁碗Ⅳ－１類に相当するとみられ，11世紀後半～12世紀前半の年代が与えられる。遺構の年代は，出土遺物にⅢ～Ⅳ期の瓦器椀が含まれることから，概ね12～13世紀代とみられる。



第182図　Ⅰ地区 SA1025遺構実測図

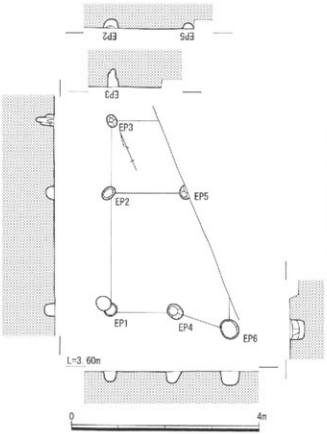
EP6　出土遺物

第183図　Ⅰ地区
SA1025遺物実測図

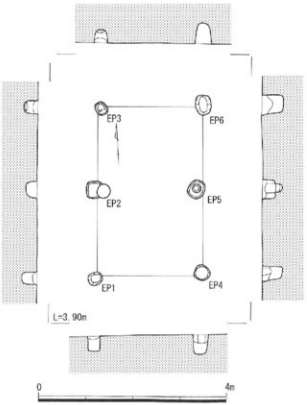


EP1　出土遺物

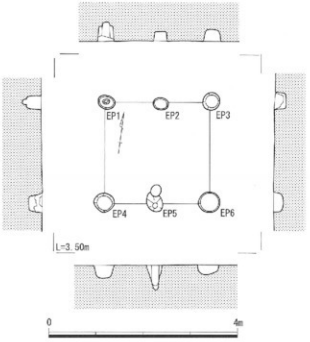
第185図　Ⅰ地区
SA1040遺物実測図



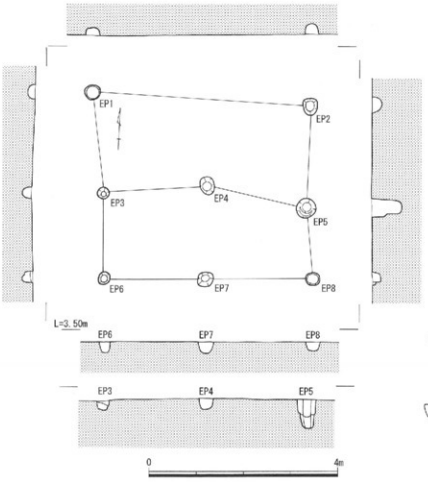
第184図　Ⅰ地区 SA1040遺構実測図

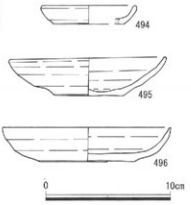


第186図　Ⅰ地区 SA1041遺構実測図



第187図　Ⅰ地区 SA1026遺構実測図





EP7　出土遺物

第188図　Ⅰ地区 SA1027遺構・遺物実測図

掘立柱建物29号（Ⅰ地区　SA1029）（第190図）

Ⅰ－7区西部北側，l・m17・18グリッドに位置する。東西2間（3.8m）南北2間（4.8m）床面積18.2㎡，8基の柱穴をもつ掘立柱建物で，建物主軸はN14°Wを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径32～47cm，深度26～42cmを測る。遺物はすべてのEPでみられ，土師質土器片・皿・杯（回転ヘラ切り）・鍋・羽釜・貯蔵具（平行タタキ），瓦器椀，鉄釘，結晶片岩製叩石が，が出土。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀などの出土遺物から，概ね13世紀代と考えられる。

掘立柱建物30号（Ⅰ地区　SA1030）（第191・192図）

Ⅰ－7区中央部，l・m18～20グリッドに位置する。東西5間（7.4m）南北3間（4.0m）床面積29.6㎡（底部含めて東西7間（9.8m）南北3間（4.4m）43.1㎡），29基の柱穴をもち，東西南に庇が付く総柱建物で，建物主軸はN80°Eを向く。柱穴は円形・不整円形・隅丸方形・不整方形を呈し，径24～88cm，深度8～53cmを測る。EP2・11・12・13・15で根石を検出。

遺物はEP1・3・5・7～29から土師質土器片・杯（回転糸切りほか）・皿（回転糸切りほか）・鍋・土錘，瓦器椀，須恵質土器貯蔵具（格子タタキ・平行タタキ），青磁碗，鉄釘，鉄滓，砂岩製砥石，被熱砂岩礫，焼土ブロック，壁土，炭化物片が出土。

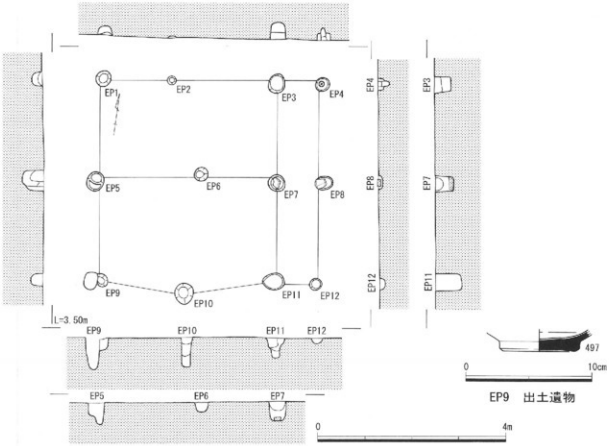
498・499はEP10の出土遺物で，土師質管状土錘。500・501はEP12の出土遺物。500は土師質土器皿で，底部外面回転糸切りのち板目痕を残す。胎土は粗めで，チャートを含む。501は瓦器椀で，口径14.0cmを測る。体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着やや不良で黄灰色を呈する。和泉型瓦器椀Ⅲ－3～Ⅳ－1期に相当し，13世紀前葉～中葉の年代が与えられる。502・503はEP17の出土遺物。502は土師質土器杯で，摩耗のため調整不明瞭であるが非回転台成形の可能性がある。503は瓦器椀の底部。底部内面に輪状のヘラミガキ暗文を施す。炭素吸着良好。型式不明であるが，低平な高台と暗文から和泉型瓦器Ⅲ－3～Ⅳ－1期に併行するとみられる。504～509はEP23の出土遺物である。504・505は土師質土器皿，506は土師質土器杯で，底部外面に回転糸切り痕を残す。507は備前焼とみられる陶器碗。回転ナデ成形で，胎土精良，灰白色を呈し，口縁内外面に重焼による炭素が付着。508は青磁碗の口縁部で，小片のため復元径は不正確。口縁内面に2条の沈線を引き，透明度の高い釉を施す。大宰府分類龍泉窯系青磁碗Ⅰ－4類に相当し，12世紀中頃～後半の年代が与えられる。509は土師質管状土錘。遺構の時期は，出土遺物から13世紀前～中葉と考えられる。

掘立柱建物31号（Ⅰ地区　SA1031）（第193図）

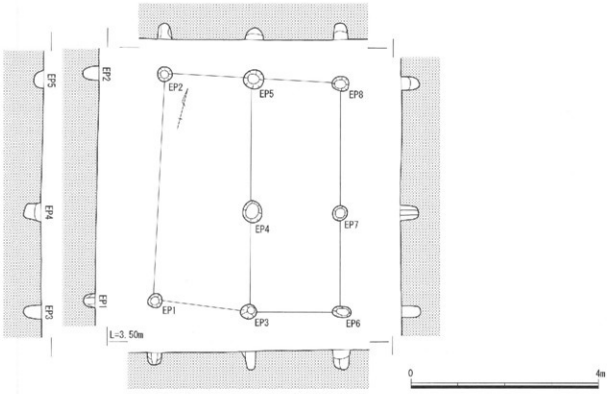
Ⅰ－7区中央部北側，m・n18・19グリッドに位置する。東西3間（5.8m）南北2間（3.4m）床面積19.7㎡，11基の柱穴をもつ掘立柱建物で，建物主軸はN85°Eを向く。柱穴は円形または不整円形・不整形を呈し，径25～62cm，深度12～44cmを測る。EP4・10で根石を検出している。

遺物はすべてのEPでみられ，弥生土器片，土師質土器片・杯（回転糸切り・手捏ね）・皿（回転糸切り・手捏ね）・羽釜・鍋，瓦器椀，須恵質土器貯蔵具，青磁片，焼土ブロック，炭化物片が出土。

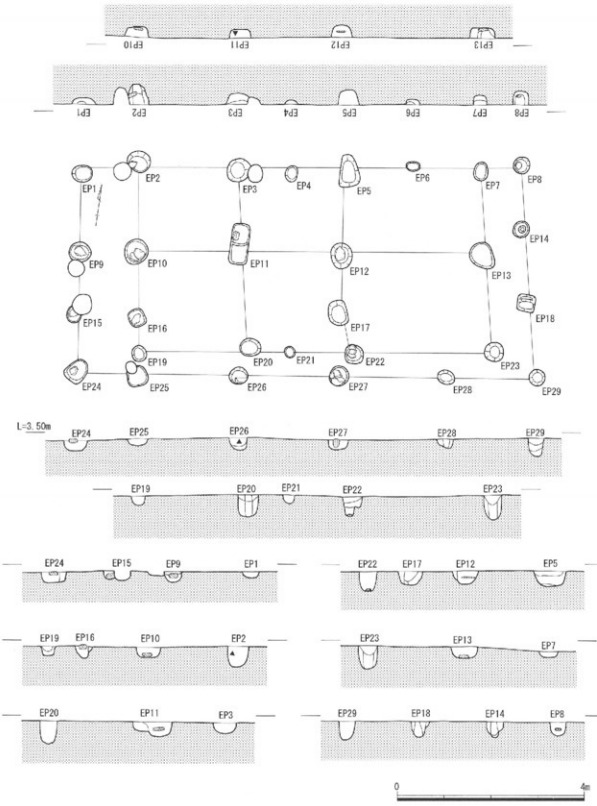
510はEP4の出土遺物で，土師質土器皿。底部外面に回転糸切りのち板目痕を残す。511はEP6の出土遺物で，土師質土器皿。非回転台成形とみられ，ヨコナデ・ナデによって調整。512～517はEP7の出土遺物で，すべて回転台成形の土師質土器供膳具。512～514は皿，515～517は杯。512～514・517は底部外面に回転糸切り痕を残し，512は板目痕を伴う。510・513・515は胎土が粗く，515はチャー



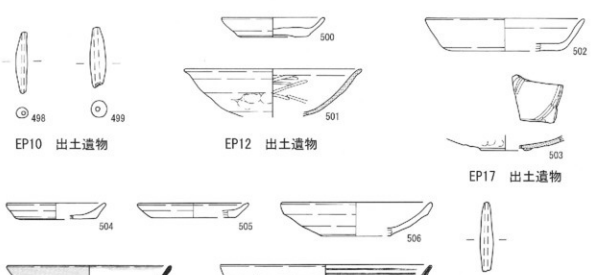
第189図　Ⅰ地区 SA1028遺構・遺物実測図



第190図　Ⅰ地区 SA1029遺構実測図



第191図　I地区 SA1030遺構実測図



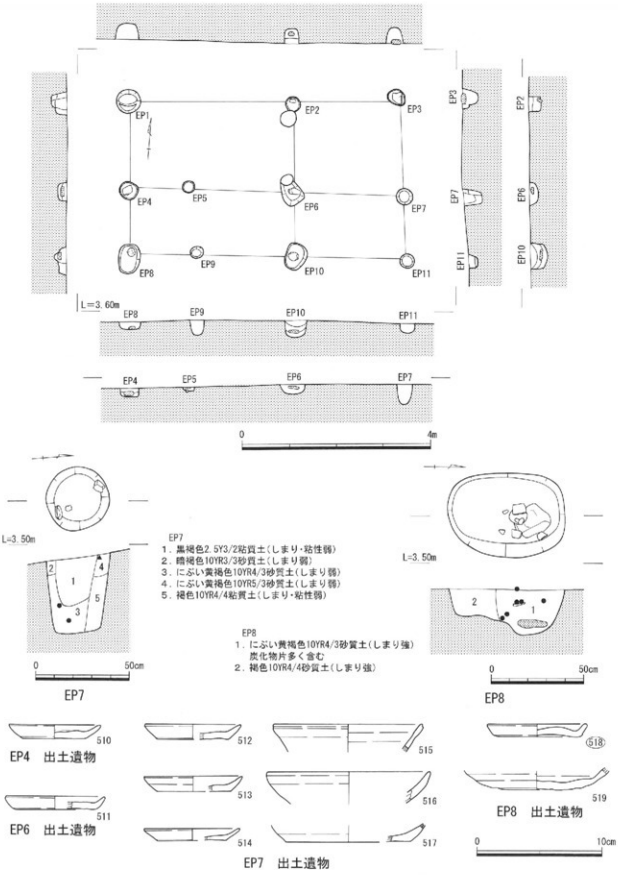
第192図　Ⅰ地区 SA1030遺物実測図

トを含む。518・519はEP８の出土遺物。518は土師質土器皿。非回転台成形であり，京都系土師器皿Ｄタイプの搬入品または在地での模倣品と考えられる。ただし，胎土は粗めで，金雲母を含有しない。13世紀代とみられる。519は土師質土器杯で，底部外面に回転糸切りのち板目痕を残す。胎土にチャートを含む。遺構の年代は，出土遺物から13世紀代と考えられる。

掘立柱建物32号（Ⅰ地区　SA1032）(第194図)

Ⅰ－７区中央部，Ⅰ・m19・20グリッドに位置する。東西２間（4.5m）南北１間（2.5m）床面積11.1㎡，６基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はN75°Eを向く。柱穴は不整円形または不整方形を呈し，径27～58cm，深度17～42cmを測る。EP６で根石を検出している。

遺物はすべてのEPでみられ，土師質土器片・椀・杯（回転糸切り）・鍋，瓦器椀，青磁碗，鉄釘，鉄滓，壁土が出土。520～522はEP２の出土遺物。520は土師質土器の椀とみられる。非回転台成形で，体部外面に指頭圧痕を残す。瓦器椀の可能性もあるが，粗めの胎土，炭素吸着せず酸化炎焼成，口径小さい，作りが粗雑，という特徴から和泉瓦器椀の模倣品である可能性あり。521は瓦器椀で，口径14.3cmを測る。炭素吸着不良で灰白色を呈する。摩耗によりヘラミガキの有無は不明である。幅の広い断面台形の高台をもつ。和泉型瓦器椀Ⅲ－３期に相当し，13世紀前葉の年代が与えられる。522は青磁碗。ロクロナデのち，内面ケズリ出しによって縦位の隆線をつくる。龍泉窯系の輪花青磁碗で，12世紀中頃～13世紀の年代が与えられる。523はEP４の出土遺物で，瓦器椀。口径14.8cmを測る。体部内面に比較的密な横位のヘラミガキを施す。炭素吸着やや不良で，酸化炎焼成気味である。外面にヘラミガキ伴わないことから和泉型瓦器椀Ⅲ－３期に相当するが，法量が大きく，高い高台を有し，内面のヘラミガキが密であることから，やや古相を呈する。遺構の年代は，出土遺物から13世紀代前半頃と考えられる。



第193図　Ⅰ地区 SA1031遺構・遺物実測図

掘立柱建物33号（Ⅰ地区　SA1033）（第195図）

Ⅰ－7区中央部東側，Ⅰ・m20・1グリッドに位置する。東西2間（2.9m）南北2間（2.6m）床面積7.5㎡，8基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はN81°Eを向く。柱穴は不整円形または不整形を呈し，径28～64cm，深度10～42cmを測る。

遺物はEP1・3・5～8でみられ，土師質土器片・椀・杯・皿（回転糸切り）・羽釜・鍋・貯蔵具（半行タタキ）・土錘，瓦器椀，須恵質土器捏鉢が出土。524～527はEP7の出土遺物で，すべて回転台成形の土師質土器供膳具。524・525は皿，526・527は杯。524～526は底部外面に回転糸切り痕を残す。527は高台付杯で，外方に張り出した幅広の高台を貼り付けのち，回転ヘラケズリにより整形。胎土に緑泥母を含む。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀を伴うことから，13世紀頃と考えられる。

掘立柱建物34号（Ⅰ地区　SA1034）（第196図）

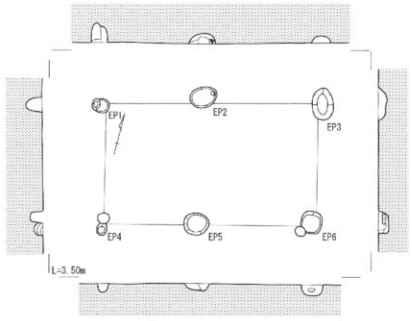
Ⅰ－7区東部南側，k・l 1・2グリッドに位置する。東西3間（4.4m）南北2間（4.4m）床面積19.4㎡，11基の柱穴をもつ総柱建物で，建物主軸はN9°Wを向く。柱穴は円形または不整円形・隅丸方形を呈し，径20～94cm，深度10～68cmを測る。

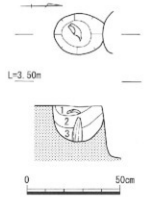
遺物はEP1～10から土師質土器片・椀・杯（回転糸切りほか）・皿（回転糸切りほか）・鍋・土錘，瓦器椀，須恵質土器貯蔵具，鉄釘，鉄滓が出土。528～531はEP1の出土遺物。528・529は土師質土器皿，530は杯で，底部外面に回転糸切り痕を残す。529・530は胎土にチャートを含む。531は瓦器椀で，口径13.6cmを測る。内面に粗い横位のヘラミガキを施す。和泉型瓦器椀Ⅳ－1期，13世紀中葉の年代とみられる。532～535はEP3の出土遺物で，いずれも土師質土器。532・533は皿，534は杯で，底部外面に回転糸切り痕を残す。534は胎土にチャートを含む。535は土師質管状土錘。536・537はEP8の出土遺物で，ともに土師質土器。536は皿で，底部外面に回転糸切り痕を残す。537は杯で，非回転台成形の可能性がある。遺構の年代は，出土遺物から13世紀代と考えられる。

掘立柱建物35号（Ⅰ地区　SA1035）（第197図）

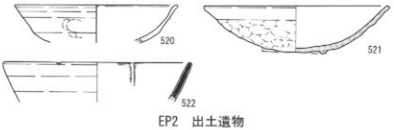
Ⅰ－7区東部中央，n・o 1・2グリッドに位置する。東西1間（5.1m）南北4間（8.1m）床面積41.3㎡，9基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はN7°Wを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径32～50cm，深度10～27cmを測る。

遺物はEP1～3・5～9でみられ，土師質土器片・杯・皿（回転糸切りほか）・鍋・羽釜，瓦器椀，須恵質土器貯蔵具（半行タタキ・格子タタキほか），青磁碗，磚十ブロックが出土。538～541はEP1の出土遺物。538・539は回転台成形の土師質土器杯で，538は底部外面に回転糸切り痕を残す。540・541は瓦器椀。口径13.2～13.8cmを測る。体部内面に粗い横位のヘラミガキを施し，540は底部内面に螺旋状のヘラミガキ暗文を施すとみられる。炭素吸着は540が良好，541がやや不良。540は和泉型瓦器椀Ⅳ－1～2期に相当し，13世紀中葉～後葉の年代が与えられる。541は模倣品の可能性があるが，概ね同時期とみられる。542～545はEP2の出土遺物。542～544は土師質土器で，542は皿，543・544は杯。ともに底部外面に回転糸切り痕を残し，542・543は板目痕を伴う。543・544は胎土にチャートを含む。545は瓦器椀。口径13.8cmを測る。体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着やや不良。和泉型瓦器椀Ⅲ－3～Ⅳ－1期に相当し，13世紀前葉～中葉の年代が与えられる。

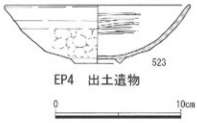




EP4

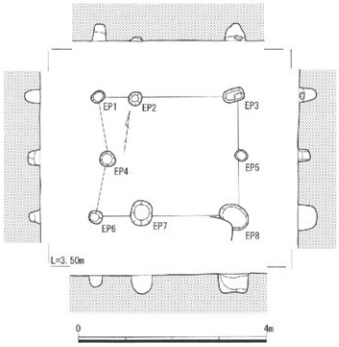


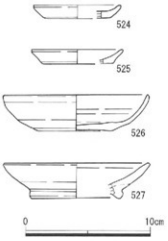
EP2　出土遺物



EP4　出土遺物

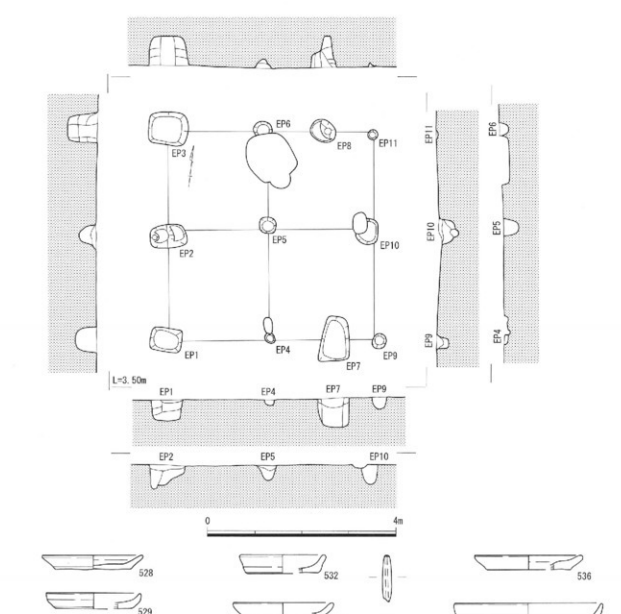
第194図　Ⅰ地区 SA1032遺構・遺物実測図





EP7　出土遺物

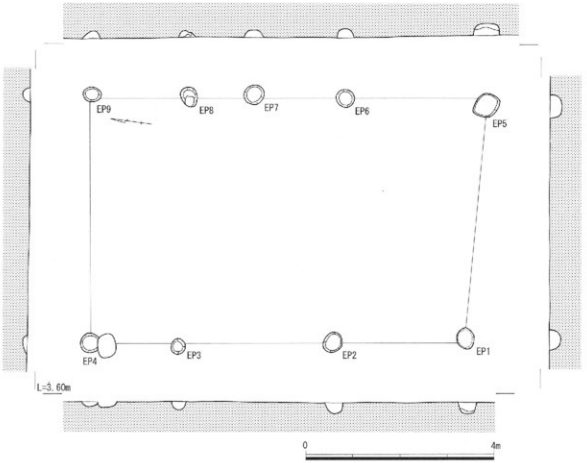
第195図　Ⅰ地区 SA1033遺構・遺物実測図

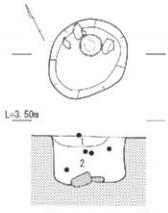


第196図　Ⅰ地区 SA1034遺構・遺物実測図

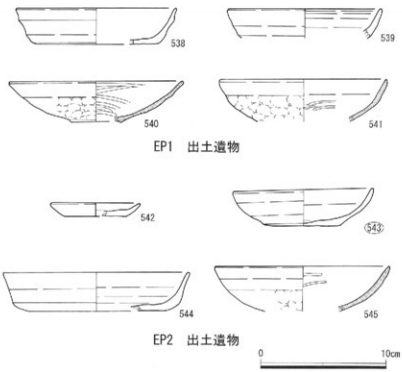
掘立柱建物36号（Ⅰ地区　SA1036）（第198図）

Ⅰ－7区中央部北側，m・n19・20グリッドに位置する。東西2間（4.3m）南北1間（2.8m）床面積12.0㎡，6基の柱穴をもつ側柱建物，建物主軸はN81°E。柱穴は円形または不整円形を呈し，径26～36cm，深度14～30cmを測る。遺物はEP1・5・6から土師質土器片・杯・鍋，瓦器椀，須恵質土器貯蔵具，鉄滓が出土。遺構の年代は，小片ながら和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀が出土することから，13世紀頃と考えられる。





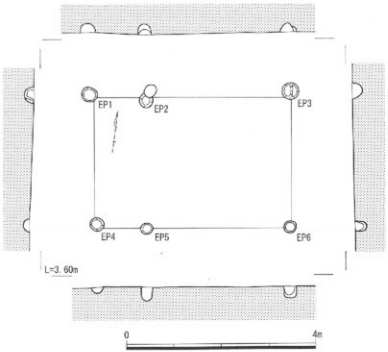
EP1



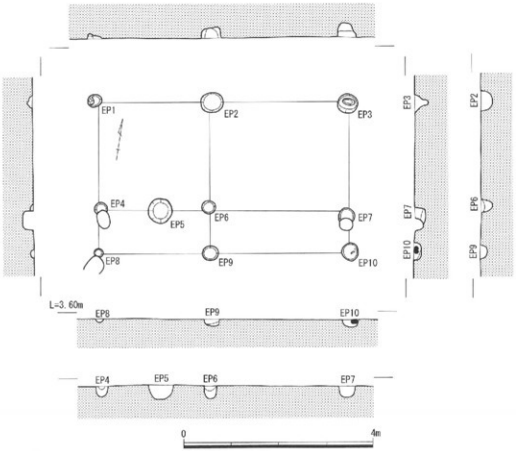
EP1　出土遺物

EP2　出土遺物

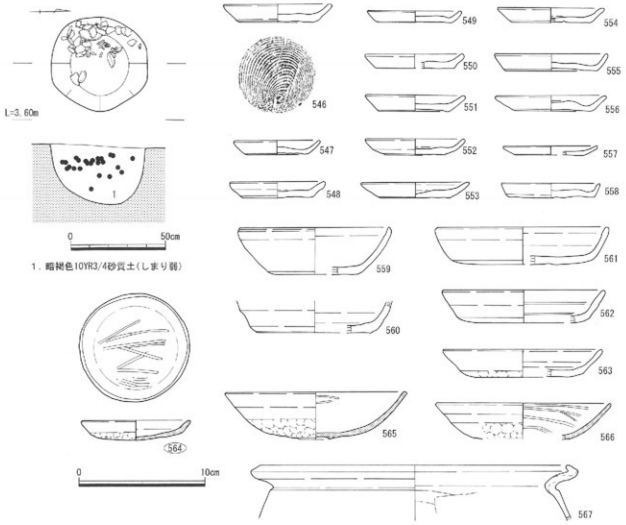
第197図　Ⅰ地区 SA1035遺構・遺物実測図



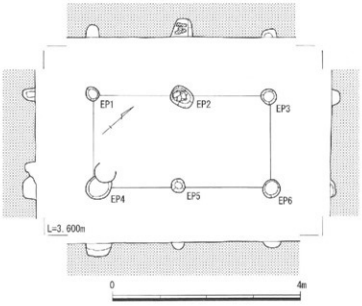
第198図　Ⅰ地区 SA1036遺構実測図



第199図　Ⅰ地区 SA1037遺構実測図



第200図　Ⅰ地区 SA1037 EP5遺構・遺物実測図



第201図　Ⅰ地区 SA1038遺構実測図

掘立柱建物37号（Ⅰ地区　SA1037）（第199・200図）

Ⅰ－7区中央部北側，n・o20・1グリッドに位置する。東西3間（5.3m）南北1間（2.3m）床面積12.2㎡〈底部含めて南北2間（3.2m）17.0㎡〉，10基の柱穴をもつ南庇付きの側柱建物で，建物主軸はN81°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径18～52cm，深度8～32cmを測る。

遺物はEP2・3・5～7・10でみられ，土師質土器片・杯・皿・鍋，瓦器椀・皿，須恵質土器捏鉢・貯蔵具（平行タタキほか），鉄滓，炭化物片が出土。

546～567はEP5の出土遺物。546～558は土師質土器皿。546～556は回転台成形で，550を除いて底部外面に回転糸切り痕を残し，546・555は板目痕を伴う。胎土は，546・554・555にチャート，549・553に泥岩を含み，551は花崗岩とチャートを含むとみられる。557・558は非回転台成形で，底部外面に指頭圧痕を残す。557は開く体部をもつことから，瓦器皿を模倣した可能性がある。558は京都系土師器皿Dタイプの模倣品とみられる。

559～563は土師質土器杯。559～561は回転台成形で，559・560は底部外面に回転糸切り痕を残す。561の底部はナデが施され，切り離し技法は不明である。562・563は非回転台成形。562の内面は横位の隆線が2条みられる。横方向の強い板ナデによるものと推測できる。563は底部外面に指頭圧痕を残す。京都系土師器皿（Dタイプか）の模倣品と考えられる。

564は瓦器皿，565・566は瓦器椀。564は体部内面に横位のヘラミガキ，底部内面に平行ヘラミガキ暗文を施す。炭素吸着は良好である。和泉型瓦器Ⅲ－3期併行と考えられる。565・566ともに体部内面に横位の粗いヘラミガキを施す。565は炭素吸着内面不良，外面良好。566は炭素吸着内面良好，外面やや不良で重焼痕を伴う。ともに和泉型瓦器椀Ⅲ－3～Ⅳ－1期，13世紀前葉～中葉とみられる。

567は土師質土器鍔付鍋。頸部外面は強いヨコナデによって凹線状に作り，口縁端部を内側に強く屈曲させる。胎土に結晶片岩・泥岩・チャートとみられる粒子を含む。13世紀代の紀伊型鍔付鍋とみられる。遺構の年代は，出土遺物から13世紀前葉～中葉と考えられる。

掘立柱建物38号（Ⅰ地区　SA1038）（第201図）

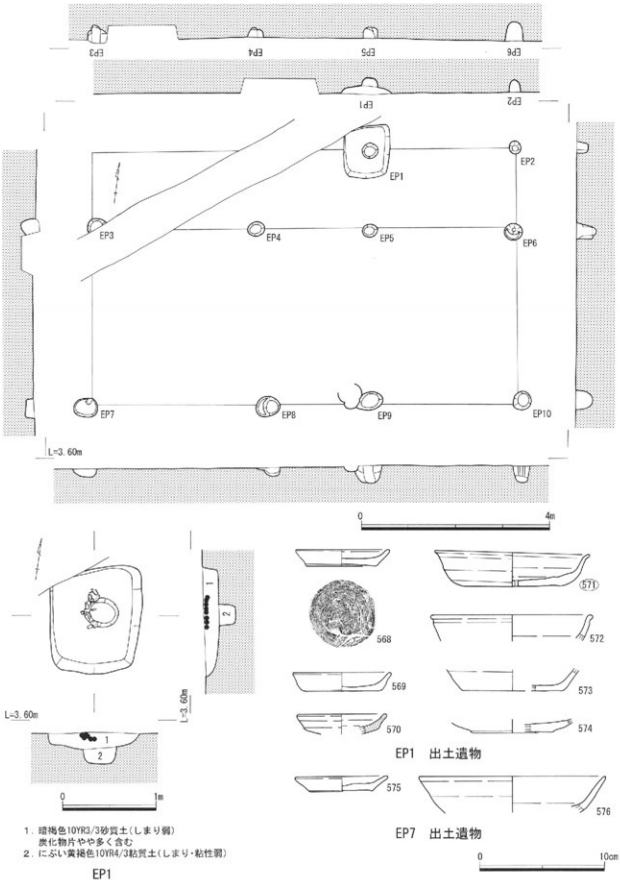
Ⅰ－7区東部北側，o・p1・2グリッドに位置する。東西2間（3.8m）南北1間（2.0m）床面積7.6㎡，6基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はN42°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径28～50cm，深度14～38cmを測る。

遺物はEP1～4・6から土師質土器片・杯（回転糸切り），瓦器椀，須恵質土器甕（平行タタキ），白磁碗，被熱砂岩礫，焼土ブロックが出土。EP2では柱抜き取り後の埋土中位から犬頭大の角礫5点が重なって出土した。遺構の年代は，瓦器椀・白磁碗の年代から12世紀後葉～13世紀代と考えられる。

掘立柱建物39号（Ⅰ地区　SA1039）（第202図）

Ⅰ－7・8区東部，o・p20～2グリッドに位置し，南東隅は側溝に切られる。東西3間（9.3m）南北1間（3.6m）床面積33.5㎡〈底部含めて南北2間（5.4m）50.0㎡〉，10基の柱穴をもつ北庇付きの側柱建物で，建物主軸はN81°Eを向く。北西隅の柱穴を欠く。柱穴は円形または不整円形・隅丸方形を呈し，径26～111cm，深度18～42cmを測る。

遺物はすべてのEPでみられ，土師質土器片・杯（回転糸切りほか）・皿（回転糸切りほか）・羽釜・鍋，瓦器椀・皿，須恵質土器椀，白磁碗，鉄滓，粘板岩製砥石，焼土ブロック，炭化物片が出土。568～574



第202図　Ⅰ地区 SA1039遺構・遺物実測図

はEP１の出土遺物。568・569は土師質土器皿で，568は底部外面に回転糸切り痕を残し，569は摩耗により不明。570は瓦器皿で，炭素吸着不良で灰白色を呈する。ヘラミガキは確認できない。和泉型瓦器Ⅳ期併行か。571～574は回転台成形の土師質土器杯で，571・573・574は底部外面に回転糸切り痕を残す。571は底部中央に直径２㎜の焼成後穿孔を施す。575・576はEP７の出土遺物で，回転台成形の土師質土器供膳具。575は皿で，底部外面に回転糸切り痕を残す。576は杯で，胎土にチャートとみられる粒子を含む。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀を伴うことから，13世紀頃と考えられる。

掘立柱建物63号（Ⅰ地区　SA1063）（第203図）

Ⅰ－７区西部南側，ｉ・ｊ17･18グリッドに位置する。東西２間（4.3m）南北２間（4.3m）床面積18.5㎡，７基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はN80°Eを向く。柱穴は円形または不整円形・不整方形を呈し，径25～108㎝，深度13～34㎝を測る。

遺物はEP２～７から須恵器杯，土師質土器片・杯・皿・鍋，瓦器椀・皿，須恵器貯蔵具（平行タタキ），青磁碗，鉄滓が出土。577～579はEP２の出土遺物。577は土師質土器杯。非回転台成形の可能性があり，底部外面はナデ調整される。578は瓦器皿。体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着は良好。和泉型瓦器Ⅲ期併行とみられる。579は瓦器椀。体部内面に横位のヘラミガキ，底部内面に平行ヘラミガキ暗文を施す。炭素吸着はやや不良。和泉型瓦器椀Ⅲ－３期に相当し，13世紀前葉の年代が与えられるが，断面台形で幅広の高台をもつことからやや古相を示す。

掘立柱建物64号（Ⅰ地区　SA1064）（第204図）

Ⅰ－７区西部北側，ｌ17～19グリッドに位置する。東西２間（5.2m）南北２間（3.2m）床面積16.6㎡，８基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はN88°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径20～61㎝，深度５～56㎝を測る。EP６で根石を検出している。遺物はEP２・３・５～８から弥生土器片，土師質土器片・鍋・土錘，瓦器椀，須恵質土器貯蔵具，砂岩製砥石，被熱砂岩礫が出土。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀を伴うことから，12世紀後葉～13世紀代と考えられる。

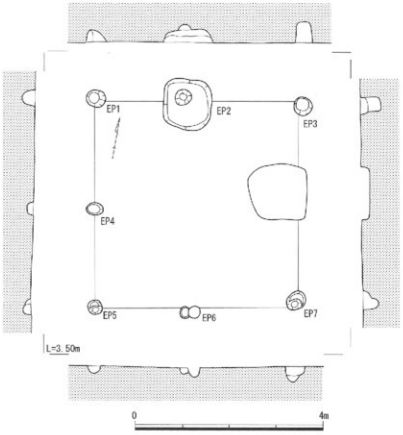
掘立柱建物65号（Ⅰ地区　SA1065）（第205図）

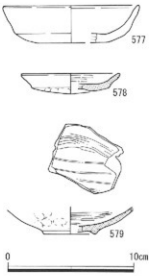
Ⅰ－７区中央部，ｌ～ｎ18～20グリッドに位置する。東西４間（8.1m）南北３間（7.0m）床面積56.7㎡，16基の柱穴をもつ掘立柱建物で，建物主軸はN82°Eを向く。柱穴は円形または不整円形・不整形を呈し，径24～83㎝，深度12～38㎝を測る。

遺物はEP２～16から土師質土器片・杯（回転糸切りほか）・皿（回転糸切りほか）・鍋，瓦器椀・皿，須恵質土器貯蔵具（平行タタキ），鉄釘，鉄滓，碇土，焼土ブロックが出土。580・581はEP６の出土遺物。580は土師質土器皿で，底部外面に回転糸切り痕のち板目痕を残す。581は瓦器皿。体部内面に粗い横位のヘラミガキ，底部内面に幅が不揃いな平行ヘラミガキ暗文を施す。炭素吸着は良好。和泉型瓦器Ⅲ－３～Ⅳ－１期併行であろう。遺構の年代は，瓦器椀・皿の時期から13世紀前葉～中葉と考えられる。

掘立柱建物66号（Ⅰ地区　SA1066）（第206図）

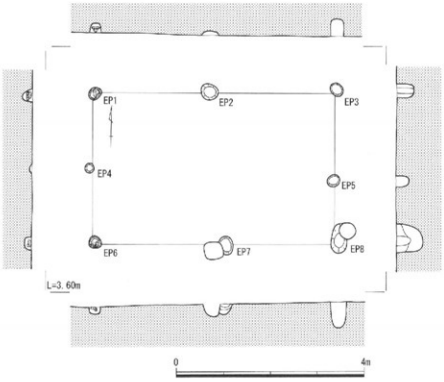
Ⅰ－７区東部南側，ｋ・ｌ１・２グリッドに位置する。東西１間（2.1m）南北２間（5.0m）床面積10.5



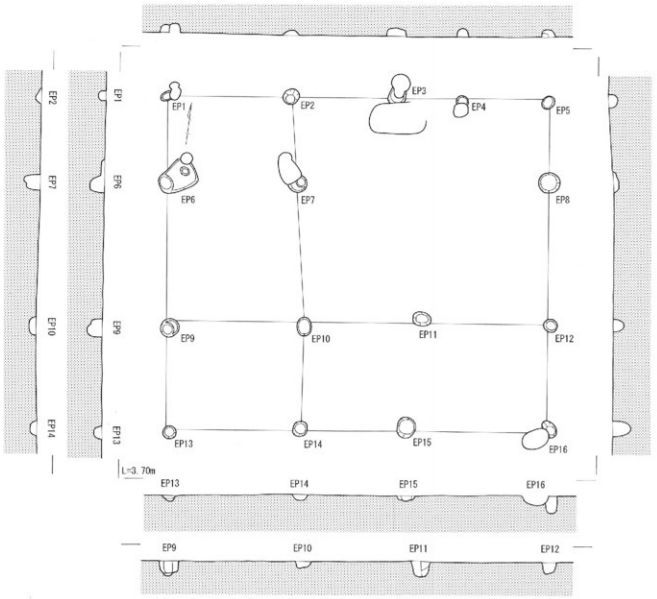


EP2　出土遺物

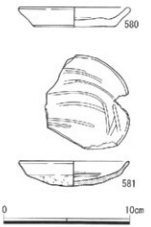
第203図　Ⅰ地区 SA1063遺構・遺物実測図



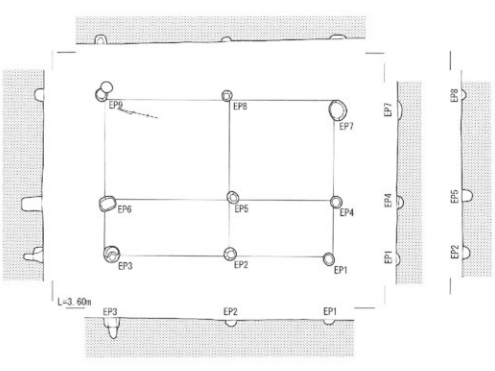
第204図　Ⅰ地区 SA1064遺構実測図



第205図　I 地区 SA1065遺構・遺物実測図



EP6　出土遺物



第206図　Ⅰ地区 SA1066遺構実測図

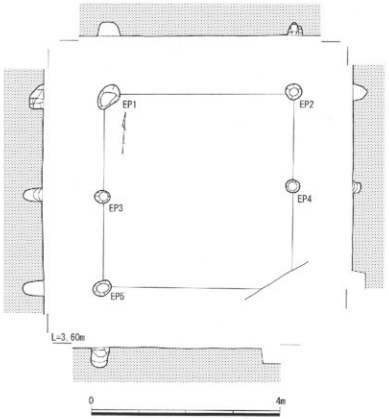
㎡（底部含めて東西２間（3.3m）16.5㎡），９基の柱穴をもつ西庇付きの側柱建物で，建物主軸はN11°Wを向く。柱穴は円形または不整円形・隅丸方形を呈し，径24～45cm，深度８～44cmを測る。遺物はEP１～３・６～９から土師質土器片・杯（回転糸切り）・鍋，瓦器椀，須恵質土器貯蔵具，焼土ブロックが出土。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀を伴うことから13世紀頃とみられる。

掘立柱建物42号（Ⅰ地区　SA1042）（第207図）

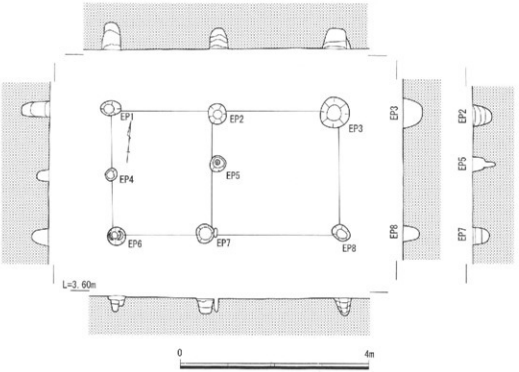
Ⅰ－８区西部南側，n・o17・18グリッドに位置する。東西１間（4.0m）南北２間（4.1m）床面積16.4㎡，５基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はN４°Wを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径30～58cm，深度27～42cmを測る。遺物はすべてのEPでみられ，土師質土器片・杯（回転糸切り）・鍋・甕，瓦器椀，須恵質土器片が出土。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀を伴うことから，13世紀頃とみられる。

掘立柱建物43号（Ⅰ地区　SA1043）（第208図）

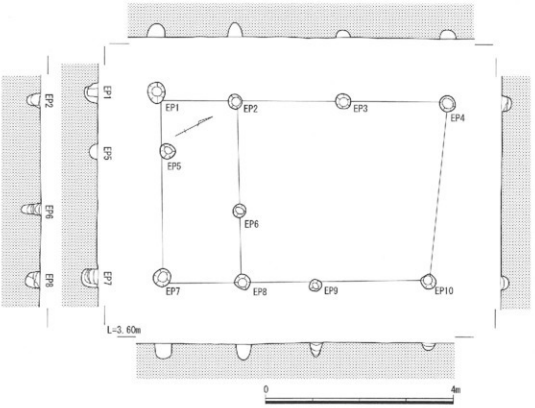
Ⅰ－８区西部中央，p17・18グリッドに位置する。東西２間（4.8m）南北２間（2.6m）床面積12.5㎡，８基の柱穴をもつ掘立柱建物で，建物主軸はN85°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径26～66cm，深度28～59cmを測る。遺物はEP１～３・５・６・８から土師質土器片・杯（回転糸切りほか）・鍋・羽釜，瓦器椀，備前陶器片，陶器片，青磁碗が出土。遺構の年代は出土遺物に時期幅があり，



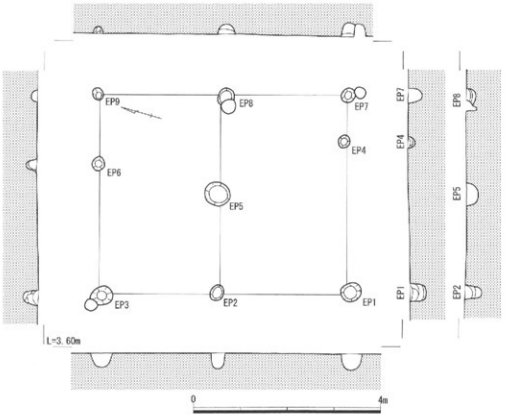
第207図　Ⅰ地区 SA1042遺構実測図



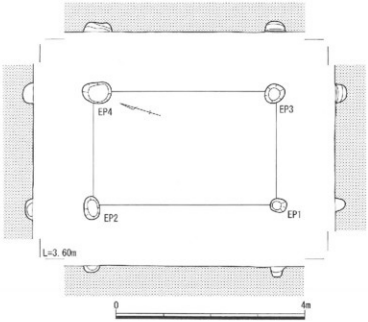
第208図　Ⅰ地区 SA1043遺構実測図



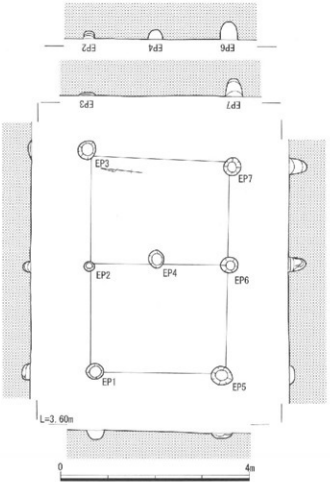
第209図　Ⅰ地区 SA1044遺構実測図



第210図　Ⅰ地区 SA1045遺構実測図



第211図　Ⅰ地区 SA1046遺構実測図



第212図　Ⅰ地区 SA1047遺構実測図

特定は難しい。

掘立柱建物44号（Ⅰ地区 SA1044）（第209図）

Ⅰ－8区西部中央，q・r17・18グリッドに位置する。東西2間(3.7m)南北3間（5.9m）床面積21.8㎡，10基の柱穴をもつ掘立柱建物で，建物主軸はN26°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径27～46cm，深度15～39cmを測る。遺物はEP1・4・6・8から土師質土器片・皿，瓦器椀が出土。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀を伴うことから13世紀頃とみられる。

掘立柱建物45号（Ⅰ地区 SA1045）（第210図）

Ⅰ－8区西部中央，q・r18・19グリッドに位置する。東西2間(4.2m)南北2間（5.3m）床面積22.3㎡，9基の柱穴をもつ掘立柱建物で，建物主軸はN18°Wを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径26～54cm，深度16～35cmを測る。遺物はEP2～7から土師質土器片，瓦器椀，須恵質土器貯蔵具（格子タタキ）が出土。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀を伴うことから13世紀頃とみられる。

掘立柱建物46号（Ⅰ地区 SA1046）（第211図）

Ⅰ－8区中央部，q・r19・20グリッドに位置する。東西1間（2.4m）南北1間（3.9m）床面積9.2㎡，4基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はN18°Wを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径34～60cm，深度16～25cmを測る。遺物はすべてのEPでみられ，土

師質土器片，黒色土器椀，瓦器椀・皿が出土。遺構の年代は，出土遺物から概ね12～13世紀代と考える。

掘立柱建物47号（Ⅰ地区　SA1047）（第212図）

Ⅰ－８区中央部南側，ｐ・ｑ19・20グリッドに位置する。東西２間（4.6m）南北１間（2.9m）床面積13.3㎡，７基の柱穴をもつ掘立柱建物で，建物主軸はN83°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径23～46cm，深度８～38cmを測る。遺物はEP１・２・６・７から土師質土器片・鍋・土錘，瓦器椀，焼土ブロック，被熱砂岩礫が出土。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀を伴うことから13世紀頃とみられる。

掘立柱建物48号（Ⅰ地区　SA1048）（第213図）

Ⅰ－７・８区中央部，ｐ・ｑ19・20グリッドに位置する。東西２間（4.9m）南北４間（8.9m）床面積43.2㎡，10基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はN５°Wを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径30～50cm，深度７～30cmを測る。

遺物はEP１・３・５～８・10から土師質土器片・椀・杯・皿（回転糸切りほか），瓦器椀，須恵質土器貯蔵具が出土。582はEP８の出土遺物で，土師質土器皿。非回転台成形の可能性があり，底部外面はナデ調整する。体部は外方に開き直線的に延び，口縁外面を面取りして端部を尖らせる。京都系土師器皿Ｊタイプの模倣品と考えられ，13世紀後半の年代が与えられる。

掘立柱建物67号（Ⅰ地区　SA1067）（第214図）

Ⅰ－８区中央部，ｑ・ｒ18・19グリッドに位置する。東西２間（4.5m）南北２間（3.4m）床面積15.3㎡，８基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はN87°Wを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径20～36cm，深度７～37cmを測る。遺物はEP１・２・４・７・８から土師質土器片，瓦器椀，須恵質土器貯蔵具（平行タタキ），焼土ブロックが出土。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀を伴うことから13世紀頃とみられる。

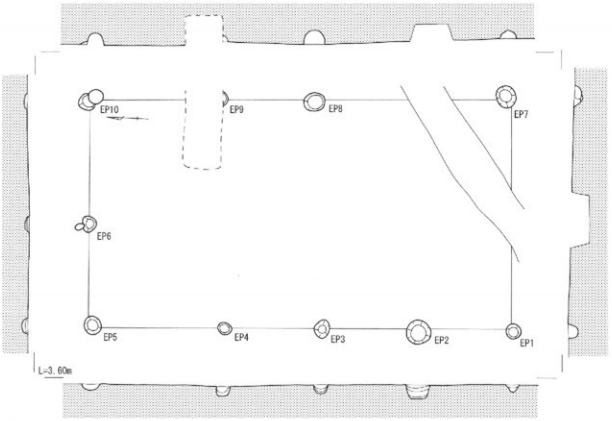
掘立柱建物49号（Ⅰ地区　SA1049）（第215図）

Ⅰ－９区南西隅，ｍ・ｎ４グリッドに位置する。東西２間（2.9m）南北３間（5.6m）床面積16.1㎡，９基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はN４°Wを向く。柱穴は円形または不整円形・隅丸方形を呈し，径32～84cm，深度18～52cmを測る。EP３・７で根石を検出。

遺物はEP１～５・７～９から須恵器供膳具，土師質土器片・杯（回転糸切り）・鍋・甕・土錘，瓦器椀，須恵質土器貯蔵具・捏鉢，鉄釘，焼土ブロック，塁土，被熱砂岩礫が出土。583はEP３の出土遺物で，土師質土器鍔付鍋。頸部外面に強いヨコナデを施し，直下に断面三角形の低い凸帯状の鍔部を貼り付け。口縁端部は内側に強く屈曲する。胎土に結晶片岩を含む。内面に煤付着。紀伊型の鍔付鍋で，13世紀代の年代が与えられる。

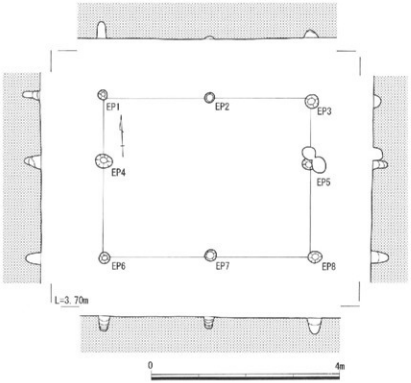
掘立柱建物50号（Ⅰ地区　SA1050）（第216図）

Ⅰ－９区西部南側，ｎ５グリッドに位置する。東西１間（3.6m）南北１間（2.5m）床面積9.0㎡，４基の柱穴をもつ側柱建物，建物主軸はN88°Wを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径26～40cm，

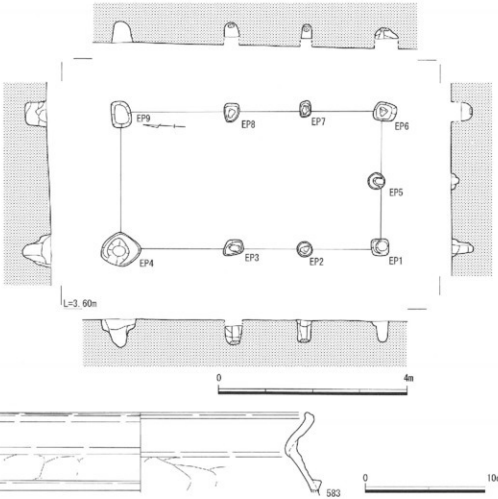


EP8　出土遺物

第213図　Ⅰ地区 SA1048遺構・遺物実測図

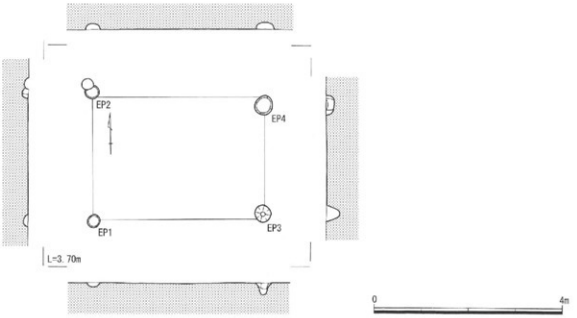


第214図　Ⅰ地区 SA1067遺構実測図



EP3　出土遺物

第215図　Ⅰ地区 SA1049遺構・遺物実測図



第216図　Ⅰ地区 SA1050遺構実測図

深度10～26cm を測る。遺物はEP２・３から土師質土器片・杯（回転糸切り）が出土。遺構の年代は，出土遺物から概ね中世前半期と考えられる。

掘立柱建物51号（Ⅰ地区　SA1051）（第217図）

Ⅰ－９区中央部南側，ｏ・ｐ６・７グリッドに位置する。東西２間（5.4m）南北２間（6.3m）床面積34.0㎡，８基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はＮ２°Ｗを向く。柱穴は円形または不整円形・隅丸方形を呈し，径26～72cm，深度４～32cm を測る。遺物はEP４・７から土師質土器片，瓦器椀が出土。遺構の年代は，瓦器椀が出土することから概ね12～13世紀代とみられる。

掘立柱建物54号（Ⅰ地区　SA1054）（第218図）

Ⅰ－９区中央部北側，ｓ・ｔ７グリッドに位置する。東西２間（3.1m）南北２間（2.8m）床面積8.7㎡，９基の柱穴をもつ掘立柱建物で，建物主軸はN87°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径24～33cm，深度７～20cm を測る。遺物はEP１・４～９から土師質土器片・杯・鍋，黒色土器椀，瓦器椀が出土。遺構の年代は，出土遺物から概ね12～13世紀代と考える。

掘立柱建物52号（Ⅰ地区　SA1052）（第219図）

Ⅰ－９区中央部，ｑ６・７グリッドに位置する。東西３間（6.4m）南北２間（4.2m）床面積26.9㎡，11基の柱穴をもつ掘立柱建物で，建物主軸はN89°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径20～40cm，深度10～38cm を測る。

遺物はEP１～３・５～７・10・11から土師質土器片・杯（回転糸切り・回転ヘラ切り）・甕・鍋，黒色土器椀，瓦器椀，平瓦・瓦片が出土。584はEP１の出土遺物で，土師質土器甕。外面ヨコナデ，内面横位の板ナデ調整を施す。外面わずかに煤付着。時期・産地ともに不明である。遺構の年代は，出土遺物から概ね12～13世紀代と考える。

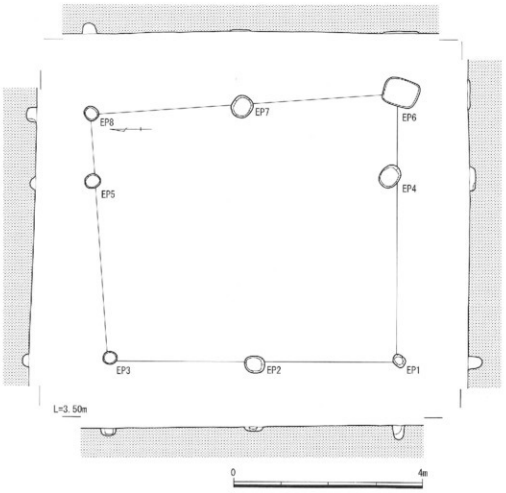
掘立柱建物53号（Ⅰ地区　SA1053）（第220図）

Ⅰ－９区中央部北側，ｒ～ｔ５・６グリッドに位置する。東西３間（4.0m）南北４間（5.4m）床面積21.5㎡，14基の柱穴をもつ掘立柱建物で，建物主軸はＮ０°ＷＥを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径23～58cm，深度６～28cm を測る。遺物はEP１～12・14から土師質土器片・杯・鍋，瓦器椀，須恵質土器捏鉢・貯蔵具（平行タタキほか），備前陶器片，鉄滓，壁土が出土。遺構の年代は，出土遺物に時期幅があるが，瓦器椀と須恵質土器捏鉢から概ね13世紀代と考える。

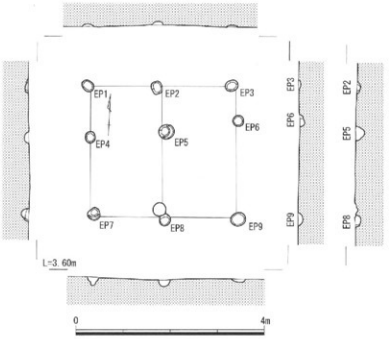
掘立柱建物55号（Ⅰ地区　SA1055）（第221図）

Ⅰ－９区東端部南側，ｑ・ｒ９・10グリッドに位置する。東西１間（2.5m）南北３間（5.2m）床面積13.0㎡，８基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はＮ７°Ｗを向く。柱穴は円形または不整円形・隅丸方形を呈し，径30～64cm，深度14～46cm を測る。

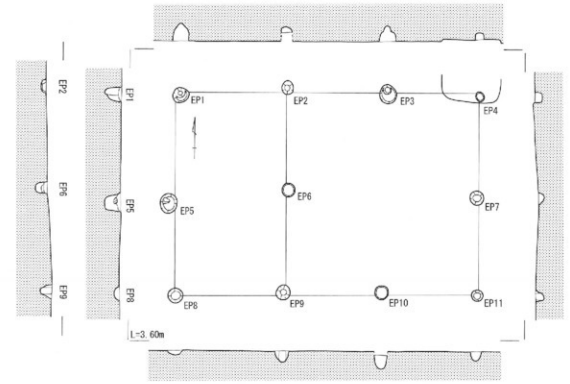
遺物はすべてのEPでみられ，土師質土器片・杯（回転糸切りと回転ヘラ切りほか）・皿・鍋・羽釜，黒色土器椀，瓦器椀・皿，須恵質土器甕，貯蔵具（平行タタキ），常滑焼陶器片，鉄釘，壁土，焼土ブロック，被熱結晶片岩礫が出土。585はEP３の出土遺物で，土師質土器羽釜。高い口縁をもち，鍔部は

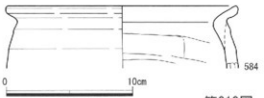


第217図　Ⅰ地区 SA1051遺構実測図



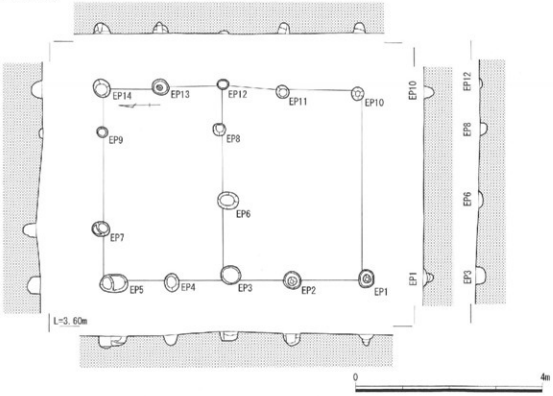
第218図　Ⅰ地区 SA1054遺構実測図



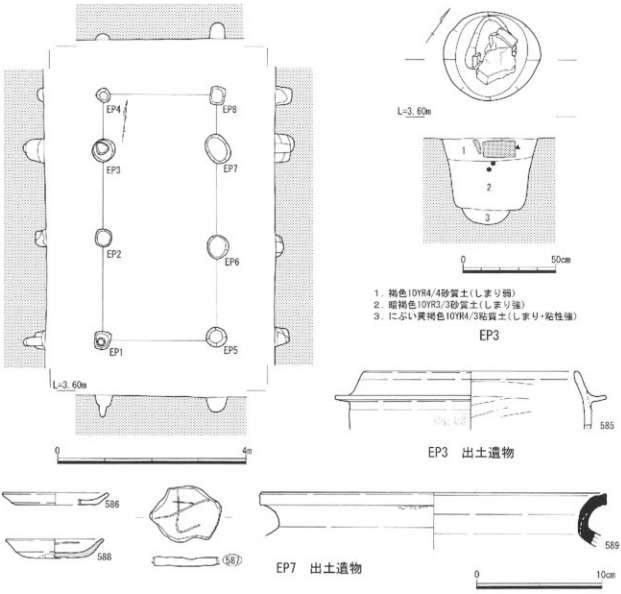


EP1　出土遺物

第219図　Ⅰ地区 SA1052遺構・遺物実測図



第220図　Ⅰ地区 SA1053遺構実測図



第221図　Ⅰ地区 SA1055遺構・遺物実測図

貼り付けでやや上方に向けて直線的に延びる。鍔端部は方形に作る。鍔部直下はタテハケを施す。胎土に砂岩を含む。586～589はEP7の出土遺物。586は土師質土器皿。非回転台成形とみられ，底部外面はナデ調整を施す。587は土師質土器杯の底部。底部外面に回転糸切りのち板目痕を残す。内面は記号とみられる焼成前ヘラ描き沈線を施す。588は瓦器皿。体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。和泉型瓦器Ⅲ－3～Ⅳ－1期に併行すると考えられる。589は須恵質土器甕。口縁端部は方形に作り，端部内側と端面は強いヨコナデによって凹線状に仕上げる。口縁外面には密な平行タタキの痕跡がある。東播系と考えられる。遺構の年代は，出土遺物から概ね12～13世紀前半と考える。

掘立柱建物56号（Ⅰ地区　SA1056）（第222図）

Ⅰ－9区東部中央，r・s 8～10グリッドに位置する。東西2間（5.9m）南北2間（3.5m）床面積20.7㎡，7基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はN89°Eを向く。柱穴は円形または不整円形・隅丸方

形を呈し，径25～43cm，深度16～33cmを測る。遺物はすべてのEPでみられ，土師質土器片・杯（回転糸切りほか）・鍋・羽釜，瓦器椀，須恵質土器貯蔵具片（平行タタキほか）が出土。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀を伴うことから13世紀頃とみられる。

掘立柱建物57号（Ⅰ地区　SA1057）（第223図）

Ⅰ－9区東部北側，s・t 8・9グリッドに位置する。東西2間（5.0m）南北2間（4.3m）床面積21.5㎡（庇部含めて南北3間（5.2m）26.0㎡），11基の柱穴をもつ北庇付きの側柱建物で，建物主軸はN8°Wを向く。柱穴は円形または不整円形・隅丸方形を呈し，径28～154cm，深度12～56cmを測る。遺物はEP3・4・6・7・9・11から土師質土器片・杯・鍋，瓦器椀・皿，須恵質土器貯蔵具，鉄釘，鉄滓，炭化物片が出土。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀を伴うことから13世紀頃とみられる。

掘立柱建物68号（Ⅰ地区　SA1068）（第224図）

Ⅰ－9区中央部北側，r・s 6・7グリッドに位置する。東西2間（4.1m）南北3間（5.6m）床面積23.0㎡，8基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はN0°WEを向く。北西隅の柱穴を欠く。柱穴は円形または不整円形で，径28～50cm，深度10～35cmを測る。遺物はEP1～6・8から土師質土器片・鍋，瓦器椀，被熱砂岩礫が出土。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀を伴うことから13世紀頃とみられる。

掘立柱建物69号（Ⅰ地区　SA1069）（第225図）

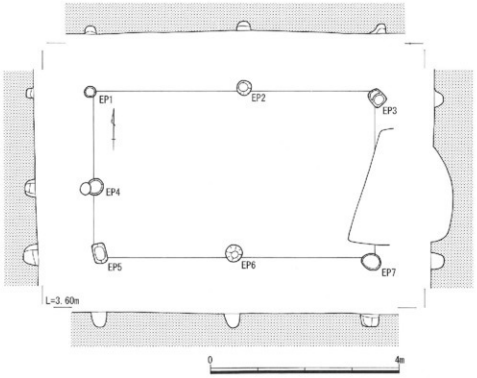
Ⅰ－9区東部北側，s・t 7・8グリッドに位置する。東西2間（3.4m）南北2間（2.8m）床面積9.5㎡，7基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はN85°Eを向く。柱穴は円形または不整円形・隅丸方形を呈し，径10～47cm，深度6～34cmを測る。遺物はEP1・3・5・7から土師質土器片・杯，瓦器椀，鉄釘が出土。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀を伴うことから13世紀頃とみられる。

掘立柱建物70号（Ⅰ地区　SA1070）（第226図）

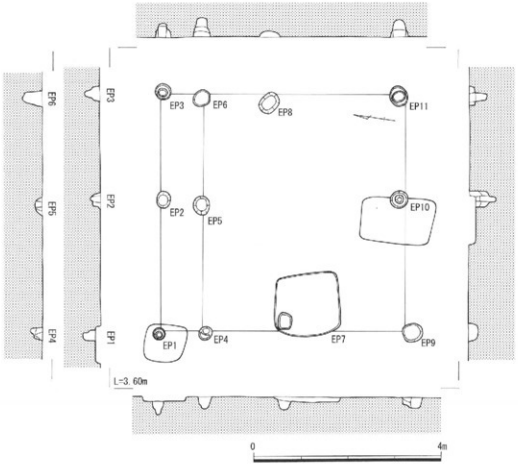
Ⅰ－9区南東隅，p・q 9・10グリッドに位置し，東は調査区外に延びる。東西2間以上（3.1m以上）南北2間（4.1m）床面積12.7㎡以上，5基の柱穴をもつ側柱建物で，現存部長軸方位はN0°WEを向く。柱穴は不整円形または隅丸方形で，径30～48cm，深度10～40cmを測る。遺物はEP2・3から土師質土器片・鍋，瓦器椀が出土。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀を伴うことから13世紀頃とみられる。

掘立柱建物71号（Ⅰ地区　SA1071）（第227図）

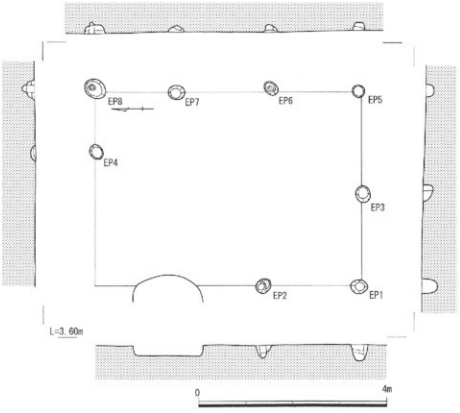
Ⅰ－9区東部南側，q・r 9・10グリッドに位置し，東は調査区外に延びる。東西4間以上（5.7m以上）南北2間（3.2m）床面積18.2㎡以上，7基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はN85°Eを向く。柱穴は円形または不整円形・隅丸方形を呈し，径27～40cm，深度21～32cmを測る。遺物はEP1・3～7から土師質土器片・杯・鍋，瓦器椀，須恵質土器捏鉢が出土。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀や東播系捏鉢を伴うことから13世紀頃とみられる。



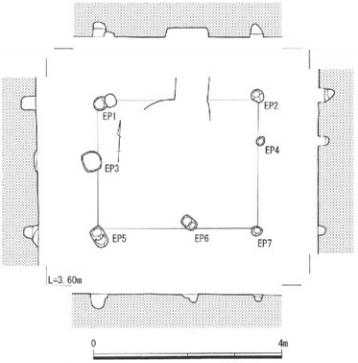
第222図　Ⅰ地区 SA1056遺構実測図



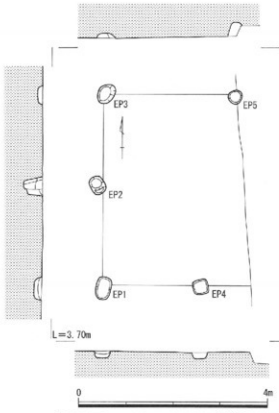
第223図　Ⅰ地区 SA1057遺構実測図



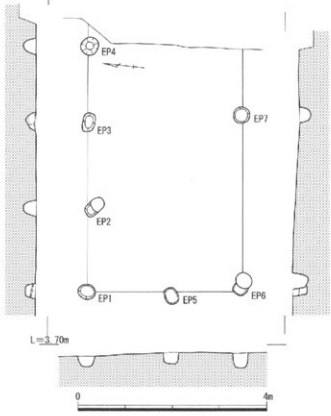
第224図　Ⅰ地区 SA1068遺構実測図



第225図　Ⅰ地区 SA1069遺構実測図



第226図　Ⅰ地区 SA1070遺構実測図



第227図　Ⅰ地区 SA1071遺構実測図

掘立柱建物58号（Ⅰ地区　SA1058）

（第228図）

Ⅰ－11区東部北側，f・g6・7グリッドに位置する。東西2間（4.1m）南北1間（2.9m）床面積11.9㎡，6基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はN87°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径28～45cm，深度14～41cmを測る。遺物はEP1・3～6から土師質土器片・杯（回転糸切り）・鍋（鍔付ほか），瓦器椀，鉄滓が出土。遺構の年代は，土師質土器鍔付甕と瓦器椀の時期から概ね13世紀代と考える。

掘立柱建物72号（Ⅰ地区　SA1072）

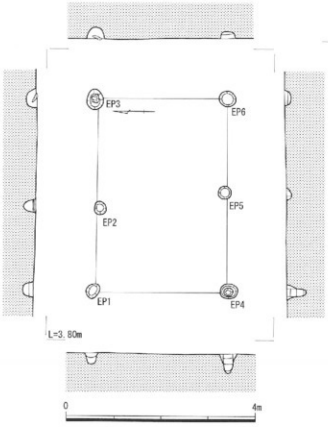
（第229図）

Ⅰ－11区西部，d・e1・2グリッドに位置し，北西は調査区外に延びる。東西3間以上（7.2m以上）南北2間以上（3.5m以上）床面積25.2㎡以上，5基の柱穴をもつ側柱建物で，建物主軸はN83°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径38～52cm，深度17～40cmを測る。遺物はEP4・5から土師質土器片・土錘，黒色土器椀，瓦器椀が出土。遺構の年代は，出土遺物から概ね12～13世紀前半と考える。

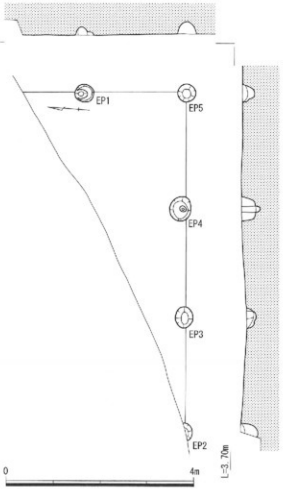
掘立柱建物73号（Ⅰ地区　SA1073）

（第230図）

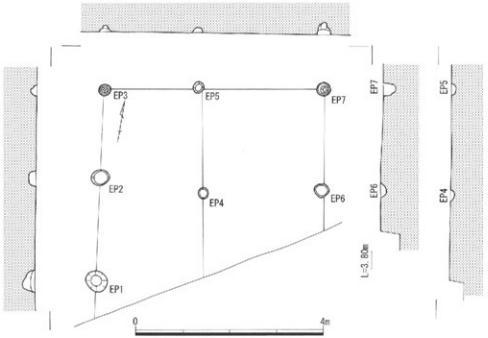
Ⅰ－11区東部南側，e・f6・7グリッドに位置し，南は調査区外に延びる。東西2間（4.6m）南北3間以上（4.9m以上）床面積22.5㎡以上，7基の柱穴をもつ掘立柱建物で，建物主軸はN9°Wを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径23～47cm，深度8～27cmを測る。遺物はEP1で土師質土器片が出土。遺構の年代は，時期決定可能な出土遺物がなく不明である。



第228図　Ⅰ地区 SA1058遺構実測図



第229図　Ⅰ地区 SA1072遺構実測図



第230図　Ⅰ地区 SA1073遺構実測図

柵列１号（Ⅰ地区　SG1001）（第231図）

Ⅰ－１区西部南側，ａ・ｂ４グリッドに位置する。南北２間（4.2m），３基の柱穴が一の字形に列ぶ柵列で，主軸はN５°Wを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径34～50cm，深度22～29cmを測る。建物との関係は，本遺構がSA1001西辺延長線上約３m，SA1002の南西側１mに位置するが，主軸が若干ずれる。また北への延長線上にSG1004の西辺が位置する。遺物はEP１・３から土師質土器杯（回転糸切り）が出土。遺構の年代は，概ね中世前半期と考えられる。

柵列２号（Ⅰ地区　SG1002）（第232・233図）

Ⅰ－１区東部中央，ｃ～ｅ６～８グリッドに位置する。東西４間（6.8m）南北３間（6.4m），８基の柱穴がＬ字形に列ぶ柵列で，主軸はN82°Eを向く。柱穴は円形または不整円形・隅丸方形を呈し，径22～50cm，深度14～31cmを測る。掘立柱建物SA1004と同方位の主軸をもち，同建物の南東側を囲む位置にある。

遺物はEP１・２・４～６から土師質土器片・杯（回転糸切りほか）・皿（回転糸切りほか）・瓦器皿が出土。590はEP１の出土遺物で，土師質土器皿。底部外面に回転糸切り痕を残す。遺構の年代は，出土遺物およびSA1004との関係から概ね13世紀代と考えられる。

柵列３号（Ⅰ地区　SG1003）（第234図）

Ⅰ－１区中央部北側，ｄ～ｆ５～７グリッドに位置する。東西５間（13.8m）南北２間（5.4m），８基の柱穴がＬ字形に列ぶ柵列で，主軸はN79°Eを向く。柱穴は円形または不整円形・隅丸方形を呈し，径28～42cm，深度17～43cmを測る。６m南に位置する建物SA1004・1060と近似する主軸をもち，掘立柱建物の北西側を囲む位置にある。EP８で根石を検出している。

遺物はすべてのEPでみられ，土師質土器片・杯（回転糸切りほか）・皿（回転糸切りほか）・羽釜，瓦器椀が出土。591はEP１の出土遺物で，土師質土器杯。回転台成形で，底部外面に回転糸切り痕を残す。遺構の年代は，出土遺物およびSA1004・1060との関係から概ね13世紀代と考えられる。

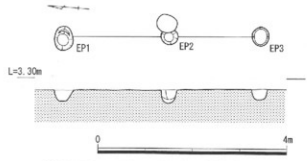
柵列４号（Ⅰ地区　SG1004）（第235図）

Ⅰ－１・２区西部，ｆ３～５グリッドに位置する。東西３間（5.7m）南北１間（1.7m），５基の柱穴がＬ字形に列ぶ柵列で，主軸はN83°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径22～28cm，深度16～28cmを測る。SA1011・1061の西側，SD1012～1015の南に近接して位置し，ともに近似した主軸方向をもつ。また西辺の南延長上にSG1001が位置する。

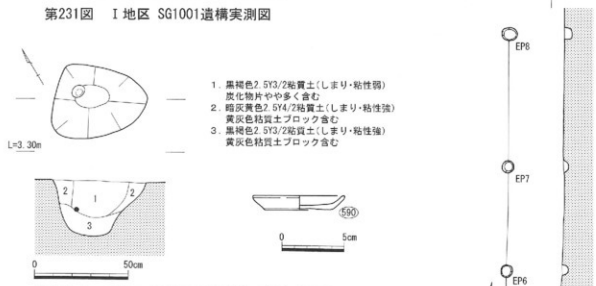
遺物はEP３で柱根とみられる木片が，EP４で土師質土器片が出土。遺構の年代は，時期決定可能な出土遺物を伴わないものの，SA1011・1061との関係から概ね13世紀代と考えられる。

柵列５号（Ⅰ地区　SG1005）（第236図）

Ⅰ－２区東部北側，ｊ５・６グリッドに位置する。東西３間（6.8m），４基の柱穴が一の字形に列ぶ柵列で，主軸はN78°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径22～60cm，深度６～27cmを測る。出土遺物は皆無である。掘立柱建物SA1010の北約６mに位置し，同建物とほぼ同方位の主軸をもつことから，本遺構の時期は概ね12～13世紀代と考えられる。



第231図　Ⅰ地区 SG1001遺構実測図



第233図　Ⅰ地区 SG1002 EP1遺構・遺物実測図

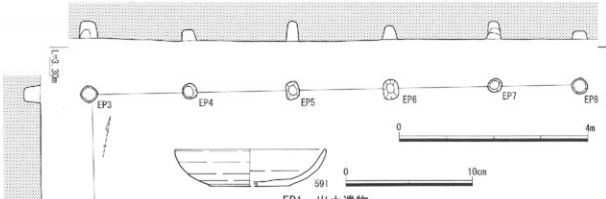
第232図　Ⅰ地区 SG1002遺構実測図

柵列6号（Ⅰ地区　SG1006）（第237図）

Ⅰ－3区中央部，g13グリッドに位置する。東西4間（3.7m），5基の柱穴が一の字形に列ぶ柵列で，主軸はN75°Eを向く。柱穴は円形を呈し，径16～20cm，深度5～10cmを測る。付近に主軸を同じくする建物や溝はみられない。出土遺物は皆無である。

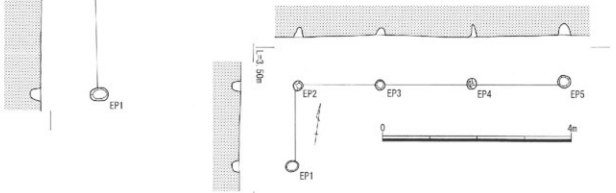
柵列7号（Ⅰ地区　SG1007）（第238図）

Ⅰ－3区西部北側，g・h12・13グリッドに位置する。東西2間（4.3m）南北1間（1.9m），4基の柱穴がL字形に列ぶ柵列で，主軸はN77°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径28～32cm，深度10～18cmを測る。付近に主軸を同じくする建物や溝はみられない。出土遺物は皆無である。

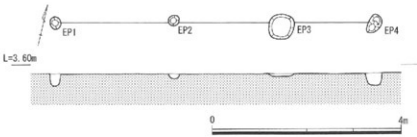


EP1　出土遺物

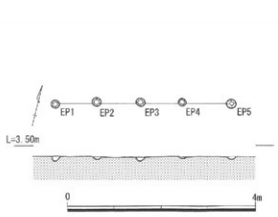
第234図　Ⅰ地区 SG1003遺構・遺物実測図



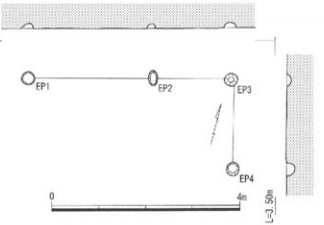
第235図　Ⅰ地区 SG1004遺構実測図



第236図　Ⅰ地区 SG1005遺構実測図



第237図　Ⅰ地区 SG1006遺構実測図



第238図　Ⅰ地区 SG1007遺構実測図

柵列８号（Ⅰ地区　SG1008）（第239図）

Ⅰ－７区西端部南側，ⅰ・ｊ16・17グリッドに位置する。南北４間（8.4m），５基の柱穴が一の字形に列ぶ柵列で，主軸はN22°Wを向く。柱穴は円形または不整円形・隅丸方形を呈し，径34～49cm，深度13～30cmを測る。西約10mに位置するSD1029と近似した主軸をもつ。遺物はすべてのEPでみられ，土師質土器片・鍋，瓦器椀が出土。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀を伴うことから13世紀頃とみられる。

柵列９号（Ⅰ地区　SG1009）（第240図）

Ⅰ－７区西部南側，ｊ18・19グリッドに位置する。東西４間（6.6m），５基の柱穴が一の字形に列ぶ柵列で，主軸はN86°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径24～52cm，深度20～48cmを測る。近似した主軸方位をもつSA1027の北1.5mに位置し，近接するSD1049とともに建物北側を区画すると考えられる。

遺物はすべてのEPでみられ，土師質土器片・杯（回転糸切りほか）・皿（回転糸切りほか）・鍋，瓦器椀，須恵質土器貯蔵具，青磁碗が出土。遺構の年代は，出土遺物および関連する遺構の年代から，概ね13世紀代と考えられる。

柵列10号（Ⅰ地区　SG1010）（第241図）

Ⅰ－８区西端部中央，ｐ～ｒ17グリッドに位置する。南北４間（8.4m），５基の柱穴が一の字形に列ぶ柵列で，主軸はN２°Wを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径32～40cm，深度12～55cmを測る。近似する主軸方位をもつSA1042の北西７m，SA1048の西約12mに位置する。遺物はEP２・３・５から弥生土器甕・土師質土器片が出土。遺構の年代は，時期決定可能な出土遺物を伴わないものの，SA1042・1048と関連するなら概ね13世紀代の年代が与えられる。

柵列11号（Ⅰ地区　SG1011）（第242図）

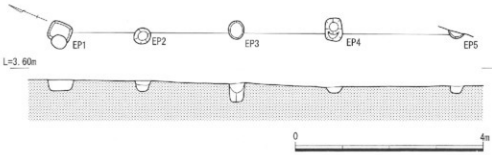
Ⅰ－８区中央部，ｑ～ｓ18・19グリッドに位置する。東西２間（5.0m）南北４間（7.0m），７基の柱穴がL字形に列ぶ柵列で，主軸はN20°Wを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径29～36cm，深度10～31cmを測る。近似する主軸方位をもつSA1045の西に近接し，方位は若干ずれるがSA1046の北西側を囲む位置にある。遺物はEP１・２・４から土師質土器片・杯，瓦器椀が出土。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀を伴うことから，13世紀頃とみられる。

柵列12号（Ⅰ地区　SG1012）（第243図）

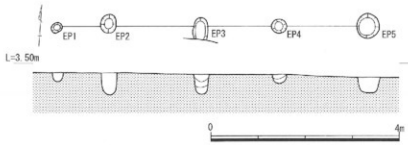
Ⅰ－８区中央部北側，ｓ・ｔ18～21グリッドに位置する。東西５間（12.4m），６基の柱穴が一の字形に列ぶ柵列で，主軸はN80°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径26～34cm，深度７～50cmを測る。近似する主軸方位をもつ建物SA1039は本遺構の南17mに位置する。出土遺物は皆無であるが，SA1039と関連するなら概ね13世紀代と考えられる。

柵列13号（Ⅰ地区　SG1013）（第244図）

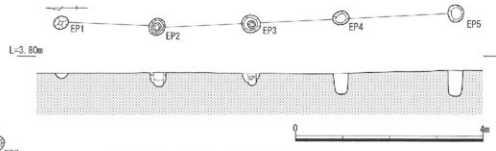
Ⅰ－８区中央部北側，ｓ・ｔ18～20グリッドに位置する。東西３間（7.4m），４基の柱穴が一の字形に



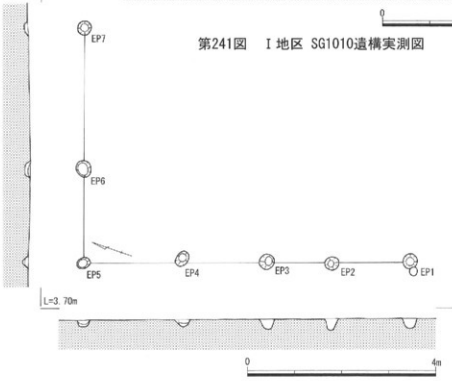
第239図　Ⅰ地区 SG1008遺構実測図



第240図　Ⅰ地区 SG1009遺構実測図



第241図　Ⅰ地区 SG1010遺構実測図



第242図　Ⅰ地区 SG1011遺構実測図

列ぶ柵列で，主軸はN88°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径34～39cm，深度16～40cmを測る。北2mにSD1055が位置するが，主軸方位は若干ずれる。遺物はEP3・4から土師質土器片，瓦器椀が出土。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀を伴うことから，13世紀頃とみられる。

柵列14号（Ⅰ地区　SG1014）（第245図）

Ⅰ－9区西端部北側，o～r4グリッドに位置する。南北4間（12.8m），5基の柱穴が一の字形に列ぶ柵列で，主軸はN3°Wを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径24～32cm，深度7～28cmを測る。東2mにほぼ同じ主軸方位をもつSD1059が並行する。遺物はEP2・4・5から土師質土器片・瓦器椀，焼土ブロックが出土。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀を伴うことから，13世紀頃とみられる。

柵列15号（Ⅰ地区　SG1015）（第246図）

Ⅰ－9区西部南端，m5・6グリッドに位置する。東西3間（5.7m）南北1間（2.1m），5基の柱穴がL字形に列ぶ柵列で，主軸はN74°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径28～42cm，深度12～30cmを測る。付近に近似する主軸方位をもつ遺構はみられない。遺物はEP4・5から瓦器椀が出土。小片のため未実測であるが，和泉型瓦器椀Ⅲ～Ⅳ期に相当し，概ね13世紀代の年代が与えられる。

柵列16号（Ⅰ地区　SG1016）（第247図）

Ⅰ－9区中央部北側，r・s5～7グリッドに位置する。東西4間（7.4m）南北2間（4.1m），7基の柱穴がL字形に列ぶ柵列で，建物主軸はN86°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径27～34cm，深度9～21cmを測る。主軸方位が近似するSA1053の南東側を囲む位置にあり，SG1017とともに区画を形成していた可能性が高い。遺物はEP3～7から土師質土器片・瓦器椀が出土。遺構の年代は，出土遺物および関連遺構の年代から概ね13世紀代と考える。

柵列17号（Ⅰ地区　SG1017）（第248図）

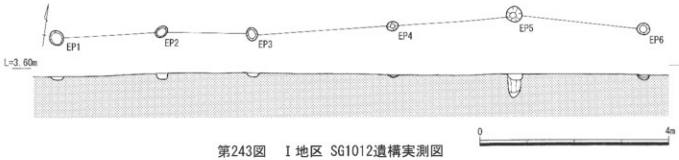
Ⅰ－9区中央部北端，t・a7グリッドに位置する。東西1間（1.1m）南北3間（4.7m），5基の柱穴がL字形に列ぶ柵列で，主軸はN2°Wを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径35～53cm，深度17～34cmを測る。主軸方位が近似するSA1053の北東側を囲む位置にあり，SG1016とともに区画を形成していた可能性が高い。

遺物はすべてのEPでみられ，土師質土器片・杯（回転糸切りほか）・鍋・土錘，瓦器椀，須恵質土器捏鉢，鉄滓が出土。遺構の年代は，出土遺物に時期幅があるが，瓦器椀と須恵質土器捏鉢の時期，および関連遺構の年代から概ね13世紀代と考える。

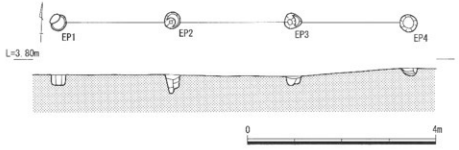
柵列18号（Ⅰ地区　SG1018）（第249図）

Ⅰ－9区南東隅，o・p9・10グリッドに位置する。東西3間（6.2m）南北2間（3.2m），6基の柱穴がL字形に列ぶ柵列で，主軸はN88°Eを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径26～41cm，深度9～40cmを測る。近似する主軸方位をもつSA1051・1052の東約10m，SG1019の南2.3mに位置する。

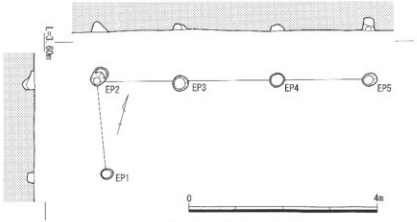
遺物はEP1・2・4～6でみられ，土師質土器片・杯・鍋，瓦器椀が出土。遺構の年代は，出土遺物および関連する遺構の年代から概ね13世紀代と考えられる。



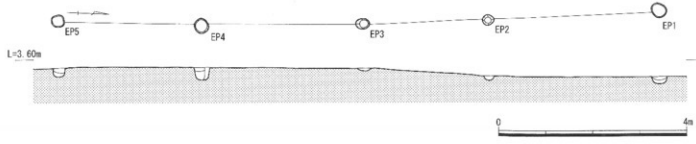
第243図　Ⅰ地区 SG1012遺構実測図



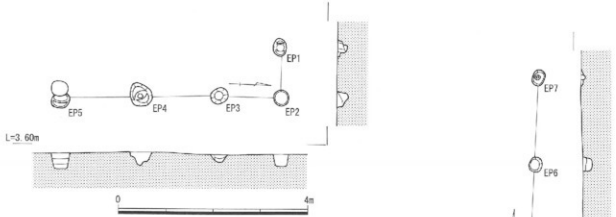
第244図　Ⅰ地区 SG1013遺構実測図



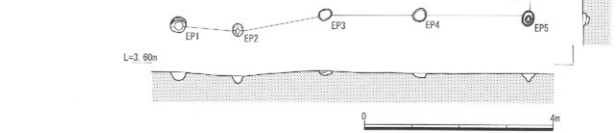
第246図　Ⅰ地区 SG1015遺構実測図



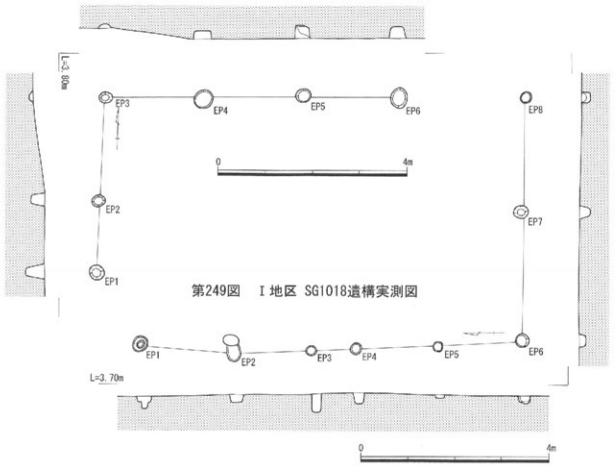
第245図　Ⅰ地区 SG1014遺構実測図



第248図　Ⅰ地区 SG1017遺構実測図



第247図　Ⅰ地区 SG1016遺構実測図



第249図　Ⅰ地区 SG1018遺構実測図

第250図　Ⅰ地区 SG1019遺構実測図

柵列19号（Ⅰ地区　SG1019）（第250図）

Ⅰ－9区東部南側，q・r 9・10グリッドに位置する。東西2間（5.1m）南北5間（8.1m），8基の柱穴がL字形に列ぶ柵列で，主軸はN1°Wを向く。柱穴は円形または不整円形を呈し，径21～34cm，深度8～40cmを測る。近似する主軸方位をもつSA1051・1052の東約10m，SG1018の北2.3mに位置する。主軸方位は若干ずれるが，SA1055の南西側を囲む位置にある。

遺物はEP1・2・4・6・7でみられ，土師質土器片・鍋・羽釜，瓦器椀，白磁碗が出土。遺構の年代は，瓦器椀・白磁碗の時期および関連遺構の年代から概ね12～13世紀代と考えられる。

柵列20号（Ⅰ地区　SG1020）（第251図）

Ⅰ－9区東部中央，s・t 8～10グリッドに位置する。東西4間（8.9m），5基の柱穴が一の字形に列ぶ柵列で，主軸はN82°Eを向く。柱穴は円形または不整円形・隅丸方形を呈し，径30～48cm，深度11～26cmを測る。近似する主軸方位をもつSA1057の南約1mに位置する。遺物はEP2・3・5でみられ，土師質土器片，瓦器椀，須恵質土器捏鉢，白磁碗が出土。遺構の年代は，瓦器椀・白磁碗・須恵質土器捏鉢の時期から概ね13世紀代と考えられる。

土坑1号（Ⅰ地区　SK1001）（第252図）

Ⅰ－1区西部南側，a 4・5グリッドに位置し，南側をSD1002～1004に切られる。東西426cm 南北残存長290cm 深度20cmを測る不整形土坑。断面はごく浅い逆台形状で，埋土は1層である。遺物は土師質土器片・杯（回転糸切り），瓦器椀，須恵質土器片が出土。592・593は土師質土器杯で，底部外面に回転糸切り痕を残す。592の底部はやや突出気味である。遺構の年代は，和泉型Ⅲ～Ⅳ期の瓦器椀を伴うことから，13世紀頃とみられる。

土坑2号（Ⅰ地区　SK1002）（第253図）

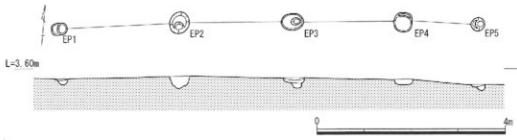
Ⅰ－1区西部南側，a 3・4グリッドに位置する，長軸116cm 短軸96cm 深度16cmを測る隅丸方形土坑。断面は浅い逆台形状で，埋土は1層である。遺構中央部，埋土最上位に人頭大の礫を配する。遺物は土師質土器片・杯（回転糸切り）・鍋，瓦器椀，須恵質土器片，砂岩製砥石が出土。594は砂岩製砥石。重量3kgを超える大型品で，4面および角の一部も使用している。遺構の年代は，出土遺物から12世紀後葉～13世紀代と考えられる。

土坑14号（Ⅰ地区　SK1014）（第254図）

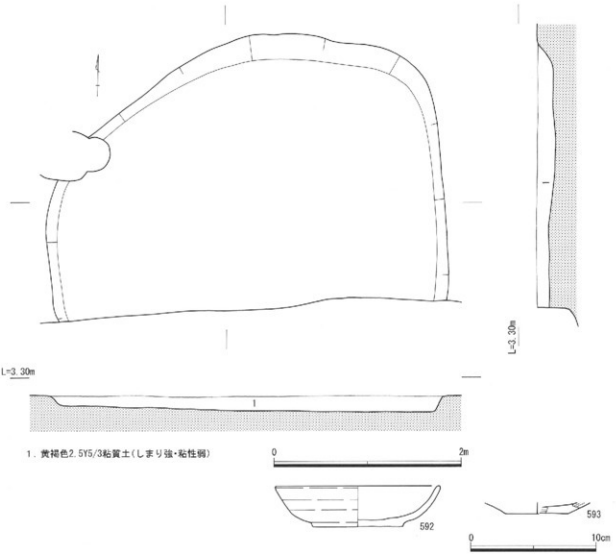
Ⅰ－1区東部南側，c 8グリッドに位置する，長軸208cm 短軸102cm 深度16cmを測る長方形土坑。断面は浅い逆台形状で，埋土は1層である。遺物は1点のみで，595は黒色土器A類椀。全体的に焼成不良で，内面の炭素吸着もやや不良である。

土坑23号（Ⅰ地区　SK1023）（第255図）

Ⅰ－1区中央部，c 6グリッドに位置し，西を撹乱に切られる。南北82cm 東西残存長72cm 深度46cmを測る方形土坑。断面は方形で，埋土は4層に分層。南西側は上からの掘削により落ち込む。大型柱穴の可能性あり。



第251図　Ⅰ地区 SG1020遺構実測図

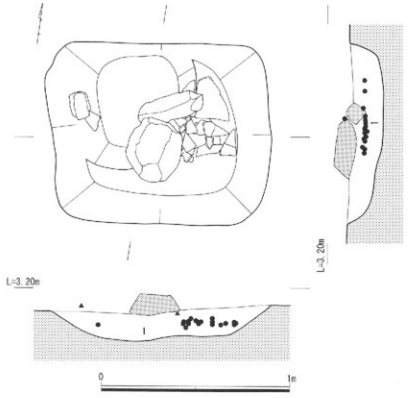


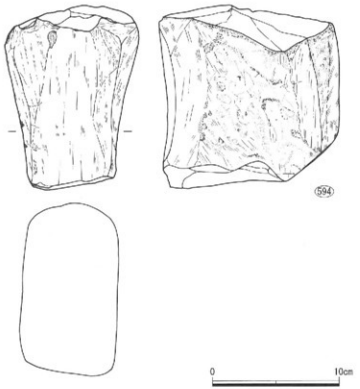
第252図　Ⅰ地区 SK1001遺構・遺物実測図

遺物は土師質土器片・杯・皿（回転糸切り）・土錘が出土。596・597は土師質土器皿で，底部外面に回転糸切り痕を残す。598～600は回転台成形の土師質土器杯で，598は底部外面に回転糸切り痕を残す。601は土師質管状土錘。細身の作りで外面に炭素付着。遺構の年代は，出土遺物から概ね12～13世紀代と考えられる。

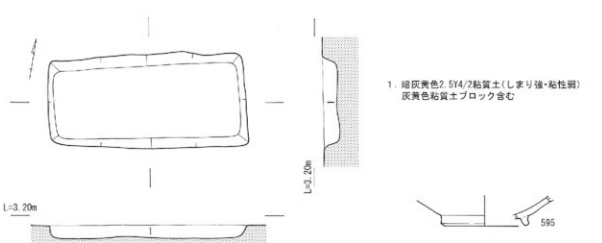
土坑25号（Ⅰ地区　SK1025）（第256図）

Ⅰ－1区中央部南側，a・b6グリッドに位置する，長軸206cm 短軸98cm 深度24cm を測る不整な長方形土坑。断面は方形で，埋土は2層に分層できる。





第253図　Ⅰ地区 SK1002遺構・遺物実測図



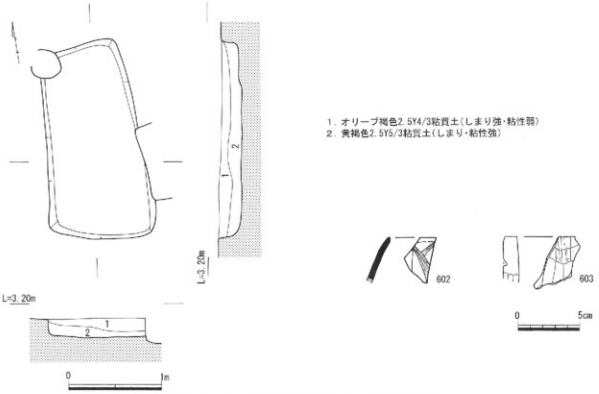
第254図　Ⅰ地区 SK1014遺構・遺物実測図

第255図　Ⅰ地区 SK1023遺構・遺物実測図

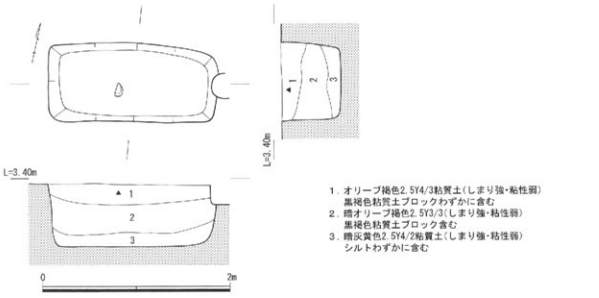
遺物は土師質土器片，瓦器椀，青磁碗，滑石製石鍋，サヌカイト製石鏃が出土。602は青磁碗で，体部外面にヘラ片彫による蓮弁文を施文する。大宰府分類の龍泉窯系青磁碗Ⅰ－５ｂ類に相当し，13世紀初頭～前半の年代が与えられる。603は滑石製石鍋。口縁の一部とみられるが，鍔部の痕跡は確認できず明瞭な削除痕もみられない。木戸分類Ⅲ－ａ－１～２類に相当するとみられ，12世紀代の年代が与えられる。遺構の年代は，出土遺物から13世紀代と考えられる。

土坑40号（Ⅰ地区　SK1040）（第257・258図）

Ⅰ－２区西部中央，ｈ２・３グリッドに位置する，長軸180cm 短軸82cm 深度66cm を測る長方形土坑。断面は方形で，埋土は３層に分層できる。遺物は土師質土器片・鍋，砂岩製台石（被熱）が出土。604は砂岩製の台石で，１層の遺構中央西寄りから出土。重量3.5kg 超の大型品で，４面を使用し，各面中央部にわずかな敲打痕と擦痕がみられる。遺構の年代は，出土遺物に乏しいため不明である。



第256図　Ⅰ地区 SK1025遺構・遺物実測図



第257図　Ⅰ地区 SK1040遺構実測図

土坑43号（Ⅰ地区　SK1043）(第259図)

Ⅰ－2区西部北側，h・i 2グリッドに位置する，長軸78cm 短軸72cm 深度12cm を測る不整形土坑。断面は浅い皿状で，埋土は1層である。出土遺物は1点のみで，605は土師質管状土錘。径3.6cm の大型品で，胎土は粗くチャートとみられる粒子を含む。遺構の年代は，出土遺物に乏しいため不明である。

土坑46号（Ⅰ地区　SK1046）（第260図）

Ⅰ－2区西部南側，｢・g 3グリッドに位置する，長軸132cm 短軸88cm 深度10cm を測る隅丸方形土坑。断面は浅い皿状で，埋土は1層である。遺物は土師質土器片・杯（回転糸切り）・鍋，瓦器椀が出土。606は土師質土器杯。回転台成形による稜線が明瞭で，底部外面に回転糸切り痕を残す。遺構の年代は，出土遺物から概ね13世紀頃とみられる。

土坑52号（Ⅰ地区　SK1052）（第261図）

Ⅰ－2区西部中央，h 3グリッドに位置する，長軸136cm 短軸118cm 深度62cm を測る不整円形土坑。断面は浅い逆台形状で，北側に上からの掘削による落ち込みがある。大型の柱穴である可能性をもつ。遺物は土師質土器杯・鍋が出土。607は土師質土器鍋。厚手の作りで，口縁端部は丸く仕上げる。胎土は粗く，金雲母・角閃石・花崗岩を含む。瀬戸内沿岸～大阪湾岸からの搬入品と考えられる。口縁端部の形状が異なるが474と同様の厚手の鍋で，12世紀代と考えられるが，古代末に遡る可能性もある。

土坑90号（Ⅰ地区　SK1090）（第262図）

Ⅰ－2区中央部南側，h 6グリッドに位置する，長軸144cm 短軸98cm 深度28cm を測る方形土坑。断面は方形で，埋土は1層である。遺物は土師質土器片・鍋・刺釜，瓦器椀が出土。608は土師質土器鍋。外方に開く体部をもち，口縁端部は若干肥厚する。頸部～体部外面は縦位のち斜位のハケ，内面横位のハケを施す。胎土は精良で，角閃石とみられる粒子を含む。瀬戸内沿岸～大阪湾岸からの搬入品とみられる。遺構の年代は，出土遺物から概ね13世紀頃と考えられる。

土坑101号（Ⅰ地区　SK1101）（第263図）

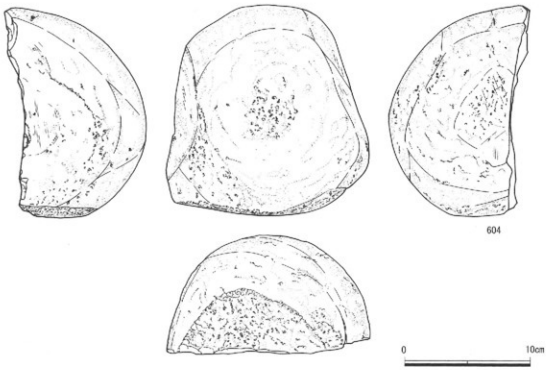
Ⅰ－2区中央部北側，h・j 5グリッドに位置する，長軸90cm 短軸86cm 深度38cm を測る方形土坑。断面は逆台形状で，埋土は3層に分層できる。遺物は土師質土器片・椀・鍋，瓦器椀，須恵質土器片が出土。609は瓦器椀。口径13.8cm を測る。摩耗のためヘラミガキは確認できない。炭素吸着はやや不良である。和泉型瓦器椀Ⅲ－3～Ⅳ－1期に相当し，13世紀前葉～中葉の年代が与えられる。

土坑103号（Ⅰ地区　SK1103）（第264図）

Ⅰ－2区中央部北側，i・j 5・6グリッドに位置する，長軸112cm 短軸100cm 深度22cm を測る隅丸方形土坑。断面は方形で，土層は1層である。遺物は土師質土器片・鍋，瓦器椀，須恵質土器甕が出土。610は瓦器椀の底部。底部内面に斜格子状ヘラミガキ暗文を施す。高台断面は逆台形状を呈する。炭素吸着は良好である。和泉型瓦器椀Ⅲ－3期とみられ，13世紀前葉の年代が与えられる。

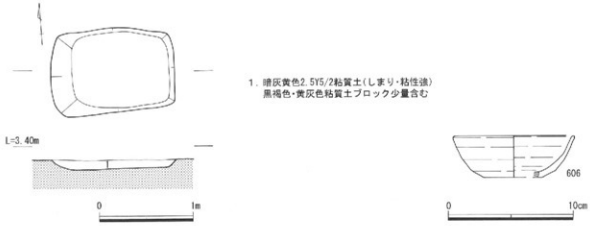
土坑105号（Ⅰ地区　SK1105）（第265図）

Ⅰ－2区中央部北側，i 6グリッドに位置する，長軸110cm 短軸102cm 深度52cm を測る不整形土坑。断面はエッジが緩い逆台形状で，埋土は3層に分層できる。遺物は土師質土器片・鍋，瓦器椀，須恵質土器捏鉢・貯蔵具が出土。611は東播系の須恵質土器捏鉢。口縁に片口を設ける。外面にわずかに自然釉が付着。森田編年第Ⅱ期1段階前後とみられ，12世紀前～後葉の年代が与えられる。

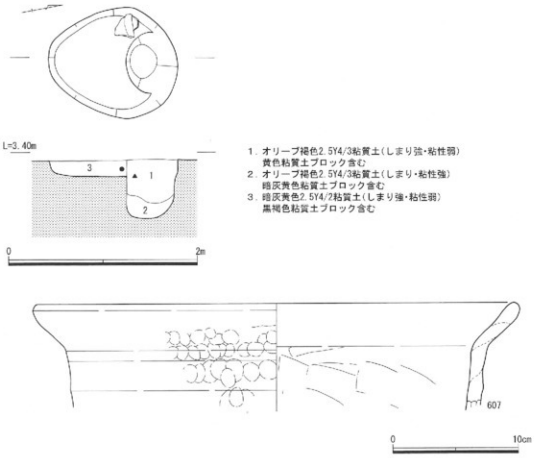


第258図　Ⅰ地区 SK1040遺物実測図

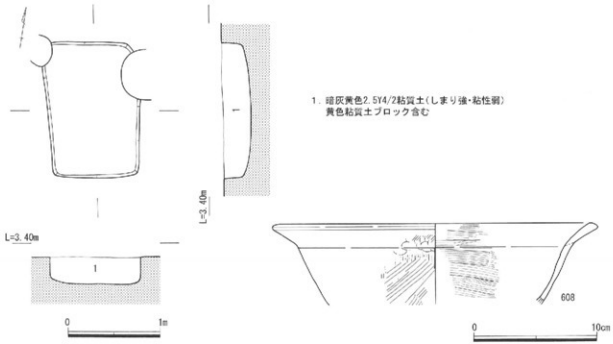
第259図　Ⅰ地区 SK1043遺構・遺物実測図



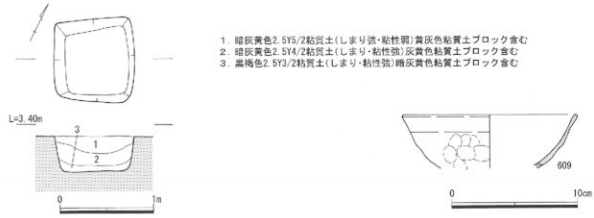
第260図　Ⅰ地区 SK1046遺構・遺物実測図



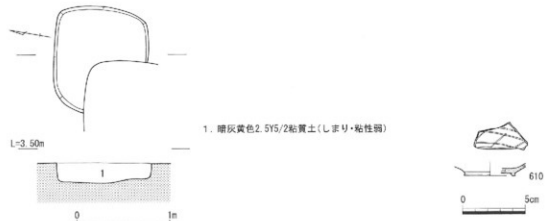
第261図　Ⅰ地区 SK1052遺構・遺物実測図



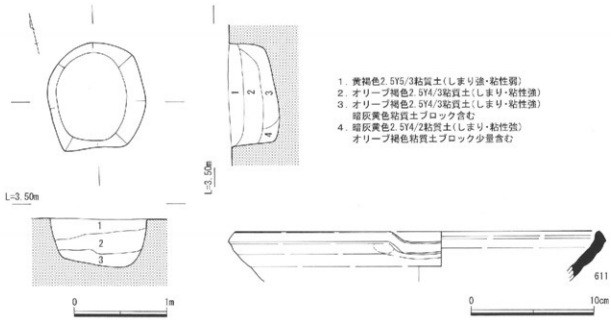
第262図　Ⅰ地区 SK1090遺構・遺物実測図



第263図　Ⅰ地区 SK1101遺構・遺物実測図



第264図　Ⅰ地区 SK1103遺構・遺物実測図



第265図　Ⅰ地区 SK1105遺構・遺物実測図

土坑114号（Ⅰ地区　SK1114）（第266図）

Ⅰ－2区東部南側，g・h 7グリッドに位置する，長軸110cm 短軸106cm 深度30cm を測る方形土坑。断面は方形で，底部は若干の高低差がある。埋土は1層である。

遺物は土師質土器片，瓦器椀，須恵質土器捏鉢，青磁碗が出土。612は青磁碗。体部内面にヘラ描き花文を施文する。釉は薄く底部内面を中心に粗い貫入がみられる。外面の釉は，一部垂付をこえて高台内側に達する。大宰府分類の龍泉窯系青磁碗Ⅰ－3類に相当するとみられ，12世紀中頃～後葉の年代が与えられる。613は東播系の須恵質土器捏鉢。底部外面に回転糸切り痕を残す。焼成やや不良で，部分的に炭素付着。底部内面は使用により摩耗。

土坑120号（Ⅰ地区　SK1120）（第267図）

Ⅰ－2区東部南側，h 7グリッドに位置する，長軸62cm 短軸40cm 深度54cm を測る不整円形土坑。壁面は垂直に近く，埋土は2層に分層できる。遺物は土師質土器片，瓦器椀，土師質平瓦が出土。614は1層下位から出土した土師質の平瓦。凹面に布目，凸面に縄蓆文，端面に板ナデを施す。炭素は吸着しない。胎土に砂岩とみられる粒子を含む。遺構の年代は，出土遺物から概ね12～13世紀代と考えられる。

土坑136号（Ⅰ地区　SK1136）（第268図）

Ⅰ－2区北東隅，k 8グリッドに位置し，東は調査区外に延びる。長軸残存長200cm 短軸74cm 深度40cm を測る長方形土坑。断面は逆台形状で，埋土は3層に分層できる。土壙墓の可能性あり。遺物は土師質土器供膳具（回転糸切り），瓦器椀，須恵質土器貯蔵具，白磁皿が出土。615は口禿の白磁皿。口縁端部と体部外面下端～底部外面は露胎。体部外面に融着の痕跡がある。大宰府分類の白磁皿Ⅸ－2類に相当し，13世紀中葉～14世紀初頭の年代が与えられる

土坑149号（Ⅰ地区　SK1149）（第269図）

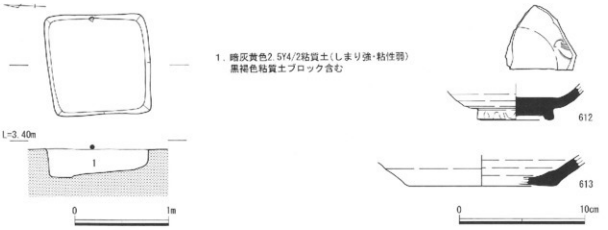
Ⅰ－3区西端部中央，f 11グリッドに位置する，長軸86cm 短軸40cm 深度22cm を測る隅丸方形土坑。断面は方形で，埋土は2層に分層できる。土壙墓の可能性がある。出土遺物は1点のみで，616は土師質土器杯。摩耗著しく，調整不明である。

土坑152号（Ⅰ地区　SK1152）（第270図）

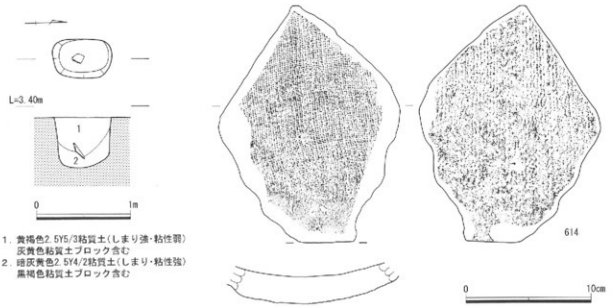
Ⅰ－3区西部中央，f 12グリッドに位置する，長軸166cm 短軸74cm 深度44cm を測る隅丸方形土坑。断面は逆台形状で，埋土は3層に分層できる。土壙墓の可能性あり。遺物は土師質土器供膳具（回転糸切り）・煮炊具，瓦器椀，須恵質土器貯蔵具，鉄釘が出土。617は瓦器椀。口径13.8cm を測る。体部内外面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着は良好である。和泉型瓦器椀Ⅲ－2期に相当し，12世紀末～13世紀初頭の年代が与えられる。

土坑156号（Ⅰ地区　SK1156）（第271図）

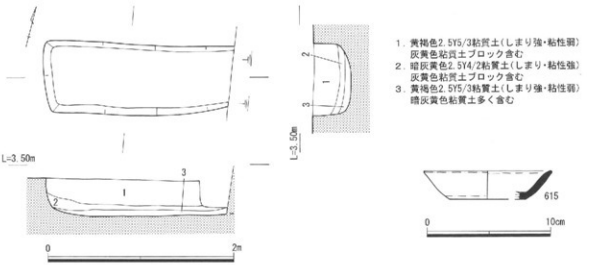
Ⅰ－3区中央部南側，e 13グリッドに位置する，長軸136cm 短軸88cm 深度30cm を測る長方形土坑。断面は方形で，埋土は3層に分層できる。遺物は土師質土器片，瓦器椀，須恵質土器貯蔵具（平行タタ



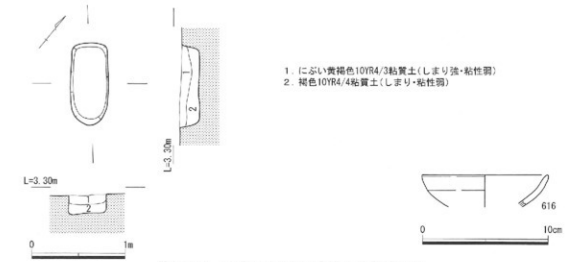
第266図　Ⅰ地区 SK1114遺構・遺物実測図



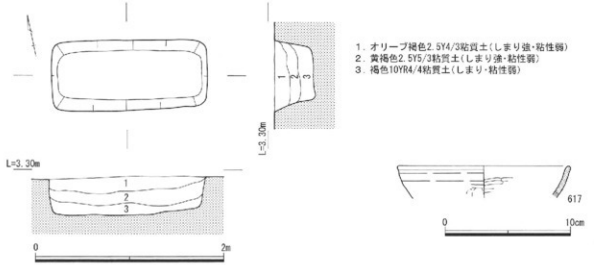
第267図　Ⅰ地区 SK1120遺構・遺物実測図



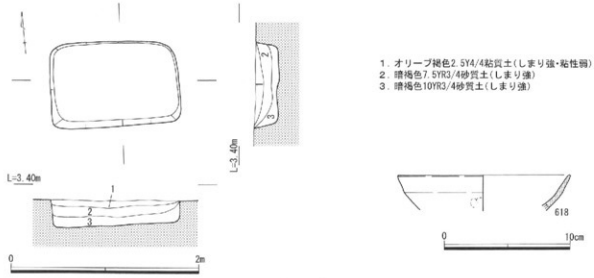
第268図　Ⅰ地区 SK1136遺構・遺物実測図



第269図　Ⅰ地区 SK1149遺構・遺物実測図



第270図　Ⅰ地区 SK1152遺構・遺物実測図



第271図　Ⅰ地区 SK1156遺構・遺物実測図

キ）が出土。618は瓦器椀。口径13.9cmを測る。摩耗著しくヘラミガキは確認できない。炭素吸着は不良で，部分的にごく薄く吸着する程度。胎土に砂岩とみられる粒子を含む。和泉型瓦器椀Ⅲ－３～Ⅳ－１期またはその模倣品とみられ，13世紀前葉～中葉の年代が与えられる。

土坑158号（Ⅰ地区　SK1158）（第272図）

Ⅰ－３区中央部南側，ｃ13グリッドに位置する，長軸188cm短軸74cm深度40cmを測る長方形土坑。断面は逆台形状で，埋土は３層に分層できる。遺物は土師質土器片，瓦器椀，陶器甕が出土。619は常滑焼とみられる須恵質焼成の陶器甕。外面に長格子の押印文を施し，内面に無文の当具痕を残す。遺構の年代は，出土遺物から12世紀後葉～13世紀代と考えられる。

土坑173号（Ⅰ地区　SK1173）（第273図）

Ⅰ－３区東部南側，ｇ15グリッドに位置する，長軸90cm短軸80cm深度18cmを測る隅丸方形土坑。断面は緩い逆台形状で，埋土は２層に分層できる。遺物は土師質土器片，瓦器椀が出土。620は瓦器椀。体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着はやや不良である。和泉型瓦器椀Ⅳ－１期に相当し，13世紀中葉の年代が与えられる。遺構の年代は13世紀中葉～後半と考えられる。

土坑175号（Ⅰ地区　SK1175）（第274図）

Ⅰ－３区東部南側，ｇ15グリッドに位置する，長軸90cm短軸86cm深度22cmを測る隅丸方形土坑。断面は緩い逆台形状で，西側に幅の狭い段を有する。埋土は２層に分層できる。遺物は土師質土器片，瓦器椀，瓦質土器鍋が出土。621は瓦質土器鍋。受口状口縁をもつが，内面の段は屈曲が弱い。炭素吸着はやや不良で，軟質焼成。畿内山城地域からの搬入品と考えられ，13世紀代の年代が与えられる。

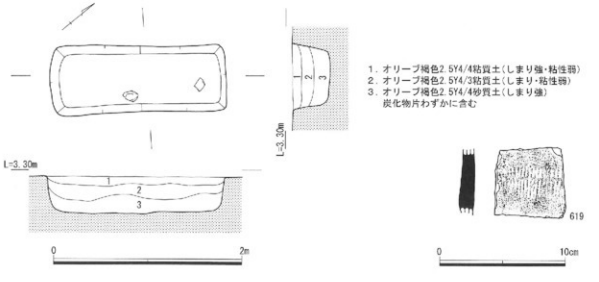
土坑176号（Ⅰ地区　SK1176）（第275図）

Ⅰ－３区東部南側，ｇ15グリッドに位置する，長軸122cm短軸84cm深度34cmを測る隅丸方形土坑。断面は逆台形状で，埋土は３層に分層できる。

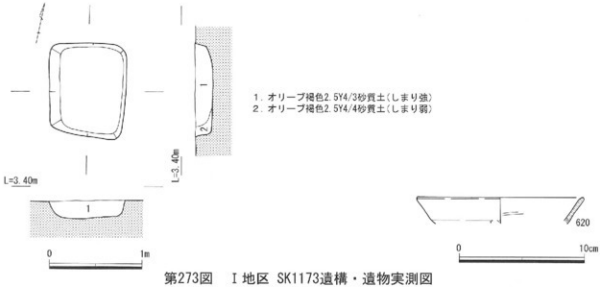
遺物は須恵器椀，土師質土器片，黒色土器椀，瓦器椀，瓦質土器鍋，鉄滓が出土。622・623は瓦器椀。622は口径13.7cmを測る。体部内面に横位のヘラミガキを施すとみられるが，磨耗により不明瞭である。炭素吸着はやや不良である。和泉型瓦器椀Ⅳ－１期前後，13世紀中葉頃とみられる。623は口径15.3cmを測る。体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着は良好。和泉型瓦器椀Ⅲ－３期，13世紀前葉とみられるが，法量が大きいためやや古相を示す。624は瓦質土器鍋。内彎気味の体部と，短く外反する口縁部をもつ。頸部外面は強いヨコナデにより稜が明瞭である。体部外面は粗いタテハケを施す。炭素吸着はやや不良で，黄灰色を呈する。胎土は粗く砂岩とみられる粒子を含む。産地不明。遺構の年代は，出土遺物に時期幅があるものの概ね13世紀代と考えられる。

土坑177号（Ⅰ地区　SK1177）（第276図）

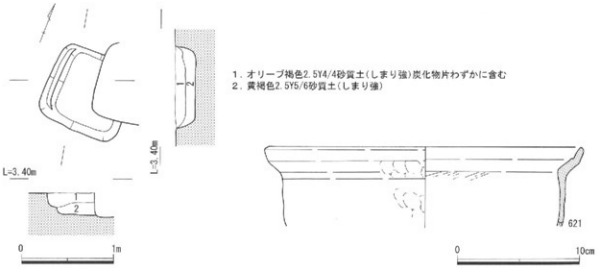
Ⅰ－３区東部南側，ｇ15グリッドに位置する，長軸120cm短軸106cm深度28cmを測る方形土坑。断面は方形で，埋土は３層に分層できる。遺物は土師質土器片・羽釜，瓦器椀，青磁碗が出土。625は青磁碗。体部内面にヘラ片彫による区画文を施す。釉は透明度が高く，粗い貫入を伴う。大宰府分類の龍



第272図　Ⅰ地区 SK1158遺構・遺物実測図



第273図　Ⅰ地区 SK1173遺構・遺物実測図



第274図　Ⅰ地区 SK1175遺構・遺物実測図

泉窯系青磁碗Ⅰ－４類に相当し，12世紀中頃～後半の年代が与えられる。遺構の時期は，出土遺物から13世紀代とみられる。

土坑180号（Ⅰ地区　SK1180）（第277図）

Ⅰ－３区東部中央，ｈ15グリッドに位置する，長軸136cm 短軸76cm 深度16cm を測る不整方形土坑。断面は浅い皿形で，埋土は２層に分層できる。

遺物は土師質土器片・煮炊具，瓦器椀，鉄滓が出土。626・627は瓦器椀。626は口径12.9cm を測るが，小片のため法量は不正確である。体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着はやや不良。和泉型瓦器椀Ⅳ－１～２期に相当するとみられ，13世紀中葉～後葉の年代が与えられる。627は口径15.0cm を測る。体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着はやや不良である。和泉型瓦器椀Ⅲ－３期に相当し，13世紀前葉の年代が与えられる。

土坑181号（Ⅰ地区　SK1181）（第278図）

Ⅰ－３区東部中央，ｈ・ｉ15グリッドに位置する，長軸76cm 短軸58cm 深度22cm を測る不整方形土坑。断面は逆台形状で，埋土は２層に分層できる。遺物は１点のみで，第１層の遺構北西側から628の鉄刀が出土。残存長24.2cm，重量194ｇの小型品で，茎の一部を欠く。時期は不明である。

土坑185号（Ⅰ地区　SK1185）（第279図）

Ⅰ－３区東部中央，ｉ・ｊ15グリッドに位置する，長軸98cm 短軸48cm 深度22cm を測る隅丸方形土坑。断面は逆台形状で，北側に幅の狭い段をもつ。埋土は２層に分層できる。出土遺物は１点のみで，629は土師質土器杯。回転台成形で，底部外面は回転ヘラ切りのち板目痕が残る。時期は特定できない。

土坑186号（Ⅰ地区　SK1186）（第280図）

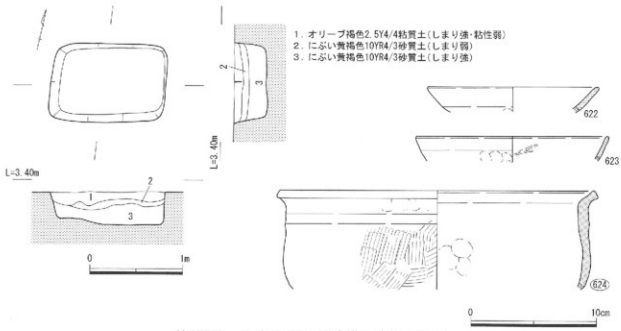
Ⅰ－３区東部中央，ｊ15グリッドに位置する，長軸122cm 短軸104cm 深度58cm を測る不整円形土坑。断面は方形で，埋土は４層に分層できる。

遺物は須恵器杯，土師質土器片・椀・杯・鍋・土錘，瓦器椀，須恵質土器捏鉢・貯蔵具，白磁碗，鉄滓が出土。630は土師質土器の椀か杯。非回転台成形とみられる。631は土師質土器椀。底部外面に断面逆台形の高台を貼り付ける。632は瓦器椀の底部。底部内面に斜格子状ヘラミガキ暗文を施し，底部外面に断面三角形の高台を貼り付ける。炭素吸着は良好である。和泉型瓦器椀のⅢ－２～３期前後に相当し，12世紀末～13世紀前葉の年代が与えられる。633は白磁碗。釉は黄味を帯び，薄く掛かる。大宰府分類の白磁碗Ⅹ１類に相当し，10世紀後半～11世紀中頃の年代が与えられる。634は東播系の須恵質土器捏鉢。回転台成形で，体部内面は斜位の板ナデを施す。森田編年第Ⅱ期第２段階に相当し，12世紀末～13世紀初頭の年代が与えられる。635は土師質管状土錘。径0.8cm で細身である。

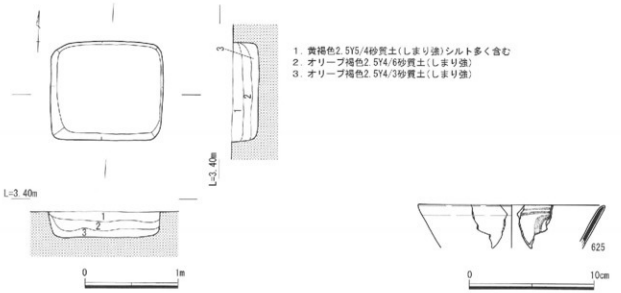
遺構の年代は，出土遺物に時期幅があるが，12世紀末～13世紀前半と考えられる。

土坑206号（Ⅰ地区　SK1206）（第281図）

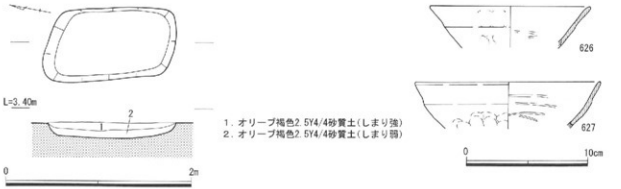
Ⅰ－４区西部南側，ｉ10グリッドに位置する，長軸126cm 短軸90cm 深度16cm を測る隅丸方形土坑。断面は浅い逆台形状で，埋土は１層。遺物は土師質土器片，瓦器椀，白磁碗が出土。636は白磁碗の底



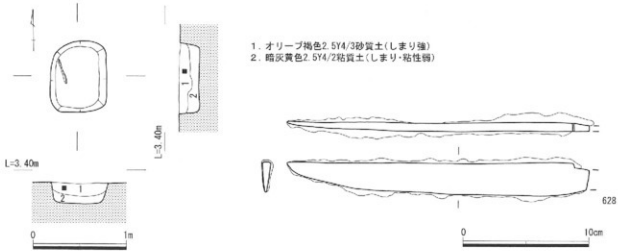
第275図　Ⅰ地区 SK1176遺構・遺物実測図



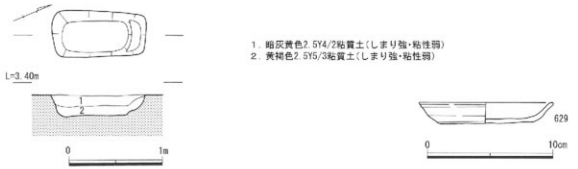
第276図　Ⅰ地区 SK1177遺構・遺物実測図



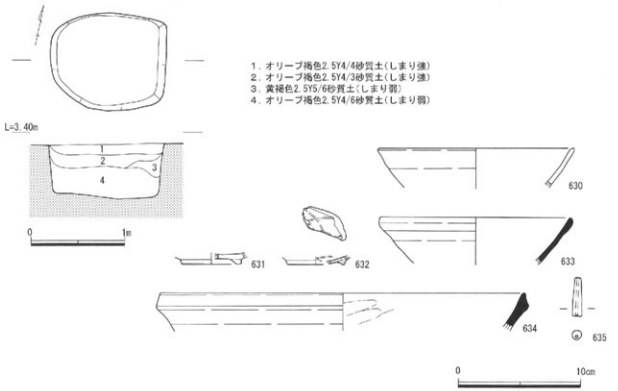
第277図　Ⅰ地区 SK1180遺構・遺物実測図



第278図　Ⅰ地区 SK1181遺構・遺物実測図



第279図　Ⅰ地区 SK1185遺構・遺物実測図



第280図　Ⅰ地区 SK1186遺構・遺物実測図

部。高台内側の削り出しは浅い。底部内面に1条の圏線を引く。釉はわずかに黄味を帯び，内面に施釉し，残存部外面は露胎。素地に微細な黒斑を含む。大宰府分類Ⅳ類に相当し，11世紀後半～12世紀前半の年代が与えられる。遺構の年代は，出土遺物に時期幅があるが，概ね12～13世紀代と考えられる。

土坑210号（Ⅰ地区　SK1210）（第282図）

Ⅰ－4区西部中央，j 10グリッドに位置する，長軸122cm 短軸94cm 深度14cm を測る方形土坑。断面は浅い逆台形状で，埋土は1層である。遺物は須恵器瓶，土師質土器片・杯（回転糸切り），瓦器椀，青磁碗が出土。637は青磁碗。体部内面に櫛描文を施す。釉の透明度高く，粗い貫入を伴う。大宰府分類の龍泉窯系青磁碗Ⅰ－2類に相当し，12世紀中頃～後半の年代が与えられる。遺構の年代は，出土遺物に時期幅があるが，概ね12世紀後半～13世紀代と考えられる。

土坑220号（Ⅰ地区　SK1220）（第283図）

Ⅰ－4区西端部北側，k 9・10グリッドに位置する，長軸168cm 短軸148cm 深度84cm を測る隅丸方形土坑。断面は不整な逆台形状で，南側に幅の狭い段を有する。埋土は3層に分層。遺物は土師質土器片・椀・鍋，瓦器椀，須恵質土器壺，瓦質平瓦が出土。638は瓦器椀。口径13.9cm を測る。磨耗によりヘラミガキは確認できない。炭素吸着は不良で，酸化炎焼成される。和泉型瓦器椀Ⅲ－3期，13世紀前葉とみられる。639は瓦質の平瓦。凹面に布目，凸面に縄叩文を残す。

土坑239号（Ⅰ地区　SK1239）（第284図）

Ⅰ－4区中央部北側，l 12グリッドに位置する，東西98cm 南北残存長48cm 深度12cm を測る円形土坑で，北半分を掘りとばしている。断面は浅い皿状で，3層に分層できる。埋土に焼土や炭化物片を多量に含むことから，炉跡である可能性が高い。出土遺物は皆無のため，遺構の年代は不明である。

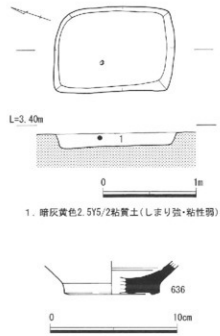
土坑244号（Ⅰ地区　SK1244）（第285図）

Ⅰ－5区東端部南側，m・n 12グリッドに位置し，東は調査区外に延びる。南北212cm 東西検出長128cm 深度28cm を測る不整形土坑。断面は逆台形状で，南と西に段を有する。埋土は2層に分層。遺物は土師器鍋，須恵器貯蔵具，土師質土器片が出土。640は土師器鍋。口縁端部を内側にわずかにつまみ出す。胎土は粗く，結晶片岩・チャート・砂岩を含む。遺構の年代は，出土遺物から概ね古代後半とみられる。

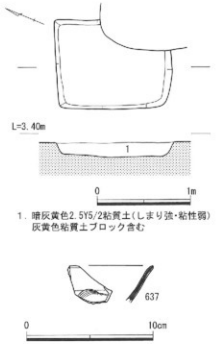
土坑257号（Ⅰ地区　SK1257）（第286図）

Ⅰ－6区西部北側，o 14グリッドに位置する，長軸106cm 短軸64cm 深度46cm を測る長方形土坑。断面は不整な逆台形状で，北側に上からの掘削による落ち込みがみられる。大型柱穴の可能性あり。

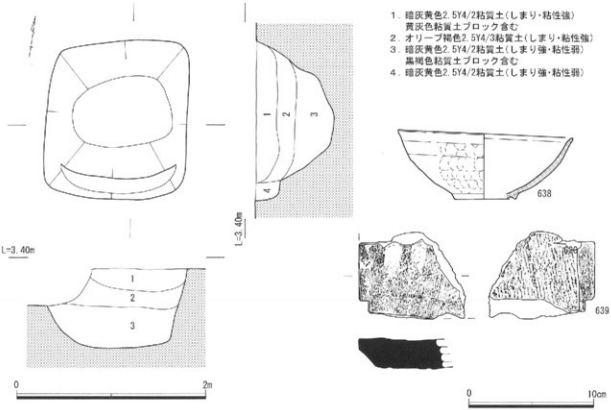
遺物は須恵器供膳具，土師質土器片・鍋，黒色土器椀，瓦器椀，泥岩円礫（黒碁石か）が出土。641は黒碁石とみられる。長さ2.1cm の扁平な円礫で，泥岩の自然礫である。これは四万十帯に由来する泥岩または粘板岩礫が流水や波浪によって風化したものである。橘湾以南の河川河口や海岸で採取できるため，人為的にもたらされたものと考える。遺構の年代は，出土遺物に時期幅があるが概ね12世紀後葉～13世紀代と考えられる。



第281図　Ⅰ地区 SK1206遺構・遺物実測図



第282図　Ⅰ地区 SK1210遺構・遺物実測図



第283図　Ⅰ地区 SK1220遺構・遺物実測図

土坑274号（Ⅰ地区　SK1274）（第287図）

Ⅰ－7区北西隅，m16・17グリッドに位置する．長軸76cm 短軸残存長26cm 深度10cm を測る不整円形土坑。北側は側溝に切られる。断面は浅い皿状で，埋土は1層である。遺物は土師質土器片・杯が出土。642は土師質土器杯。回転台成形で，底部外面に回転糸切り痕を残す。遺構の年代は，出土遺物から概ね12～13世紀代と考えられる。

土坑275号（Ⅰ地区　SK1275）（第288図）

Ⅰ－7区西部北側，m17グリッドに位置する，長軸102cm 短軸94cm 深度36cm を測る不整円形土坑。断面は不整な逆台形状で，南側に上からの掘削による落ち込みがある。埋土は5層に分層される。大型柱穴の可能性がある。

遺物は土師質土器片・杯（回転ヘラ切り）・鍋，瓦器椀，青銅製品片が出土。643・644は土師質土器杯。回転台成形である。643の底部外面は磨耗のため切り離し痕が確認できない。643は胎土にチャートを含む。645は土師質土器杯。非回転台成形とみられ，体部外面下端に横位の手持ちヘラケズリを施す。遺構の年代は，出土遺物から概ね12世紀後葉～13世紀代と考えられる。

土坑284号（Ⅰ地区　SK1284）（第289図）

Ⅰ－7区東部北端，p1グリッドに位置する，長軸134cm 短軸98cm 深度24cm を測る隅丸方形土坑。断面は不整な逆台形状で，南側に段を有する。埋土は2層に分層できる。

遺物は土師質土器片・杯（回転糸切り），瓦器椀，青磁碗，鉄釘，鉄滓が出土。646は土師質土器杯で，底部外面に回転ヘラ切り痕を残す。647は土師質土器杯で，非回転台成形とみられる。胎土にチャートと砂岩とみられる粒子を含む。648は瓦器椀。口径13.4cm を測る。体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着は不良である。和泉型瓦器椀Ⅳ－1～2期に相当するとみられ，13世紀中葉～後葉の年代が与えられる。649は青磁碗。体部内面にヘラ片彫によって施文する。大宰府分類の龍泉窯系青磁碗Ⅰ－4類に相当し，12世紀中頃～後半の年代が与えられる。遺構の年代は，出土遺物から13世紀代と考えられる。

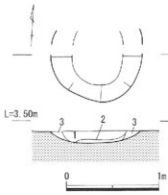
土坑287号（Ⅰ地区　SK1287）（第290図）

Ⅰ－7区東端部中央，n2・3グリッドに位置する，長軸78cm 短軸76cm 深度16cm を測る不整形土坑。断面は浅い逆台形状で，埋土は2層に分層できる。検出面より上位で遺物が集中する。

遺物は土師質土器片・杯（回転糸切り），瓦質土器片，須恵質土器片，備前陶器片，鉄滓，軽石が出土。650～652・654は回転台成形の土師質土器杯。650・651・654は底部外面に回転糸切り痕を残す。654は胎土にチャートを含む。653は非回転台成形とみられる。回転台成形の杯と比較して胎土が粗い。655は用途不明の軽石礫。多孔質の軽石で褐灰色を呈する。石英・角閃石・金雲母を含有する。側面を研削加工し，表面に擦痕を伴う。

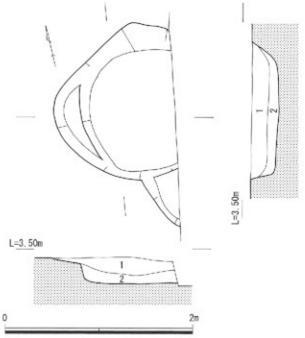
土坑294号（Ⅰ地区　SK1294）（第291図）

Ⅰ－7区東部中央，n1グリッドに位置する，長軸112cm 短軸106cm 深度12cm を測る隅丸方形土坑。断面は浅い皿状で，埋土は1層である。

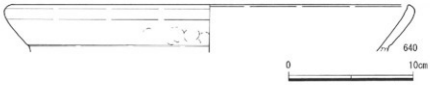


1．暗灰黄色2.5Y4/2粘質土(しまり強・粘性弱)
焼土ブロック多く含む,1cm角未満の白色粒含む
2．暗灰黄色2.5Y5/2粘質土(しまり・粘性強)
3．暗灰黄色2.5Y4/2粘質土(しまり強・粘性弱)
灰黄色粘質土ブロック含む

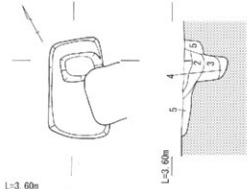
第284図　Ⅰ地区 SK1239遺構実測図



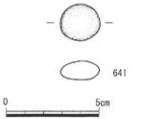
1．オリーブ褐色2.5Y4/3粘質土(しまり・粘性弱)
2．オリーブ褐色2.5Y4/4粘質土(しまり・粘性弱)



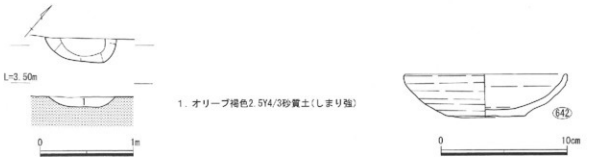
第285図　Ⅰ地区 SK1244遺構・遺物実測図



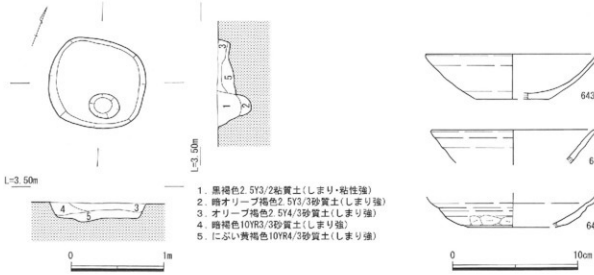
1．暗オリーブ褐色2.5Y3/3砂質土(しまり強)
2．暗褐色10YR3/4砂質土(しまり強)
3．暗褐色10YR3/4粘質土(しまり強・粘性弱)
4．オリーブ褐色2.5Y4/3粘質土(しまり強・粘性弱)
5．にぶい黄褐色10YR4/3砂質土(しまり弱)



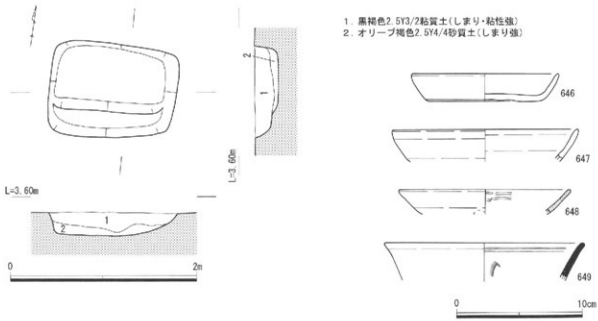
第286図　Ⅰ地区 SK1257遺構・遺物実測図



第287図　Ⅰ地区 SK1274遺構・遺物実測図



第288図　Ⅰ地区 SK1275遺構・遺物実測図



第289図　Ⅰ地区 SK1284遺構・遺物実測図

遺物は土師質土器杯（回転糸切り）・皿・鍋・土錘，瓦器椀，須恵質土器片が出土。656は土師質土器皿，657は土師質土器杯。ともに底部外面に回転糸切り痕を残す。658は瓦器椀。底部内面に斜格子状ヘラミガキ暗文を施す。炭素吸着は良好である。和泉型瓦器椀Ⅲ－３期に相当し，13世紀前葉の年代が与えられる。659は土師質管状土錘。

土坑295号（Ⅰ地区　SK1295）（第292図）

Ⅰ－７区東部中央，m・n20・１グリッドに位置する，長軸164cm 短軸106cm 深度16cm を測る長方形土坑。断面は浅い逆台形状で，埋土は２層に分層できる。

遺物は土師質土器杯（回転糸切り）・皿・鍋・捏鉢，瓦器椀，須恵質土器捏鉢，備前陶器片が出土。660・661は土師質土器皿で，底部外面に回転糸切り痕を残す。662・663は瓦器椀。662は口径14.0cm を測る。体部内面に粗い横位のヘラミガキを，底部内面に連結輪状ヘラミガキ暗文を施す。炭素吸着は不良である。紀伊型瓦器椀とみられ，和泉型瓦器Ⅲ－３～Ⅳ－１期併行，13世紀前葉～中葉とみられる。663は口径12.8cm を測る。体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着は良好である。和泉型瓦器椀Ⅳ－２期に相当するとみられ，13世紀後葉の年代が与えられる。

土坑296号（Ⅰ地区　SK1296）（第293図）

Ⅰ－７区中央部，m20・１グリッドに位置する，長軸182cm 短軸134cm 深度54cm を測る隅丸方形土坑。断面は不整な逆台形状で，埋土は３層に分層できる。

遺物は土師質土器片・鍋，瓦器椀・皿，須恵質土器片，焼土ブロック，鉄滓が出土。664は瓦器皿。底部内面にヘラ先による不揃いな平行状多条沈線を施す。平行ヘラミガキ暗文を意識したものと考えられる。炭素吸着はやや不良である。和泉型瓦器Ⅲ－３期併行か。665は瓦器椀。口径14.8cm を測る。体部内面に密な横位のヘラミガキ，底部内面に平行ヘラミガキ暗文を施す。炭素吸着はやや不良である。和泉型瓦器椀Ⅲ－３期に相当し，13世紀前葉の年代が与えられる。

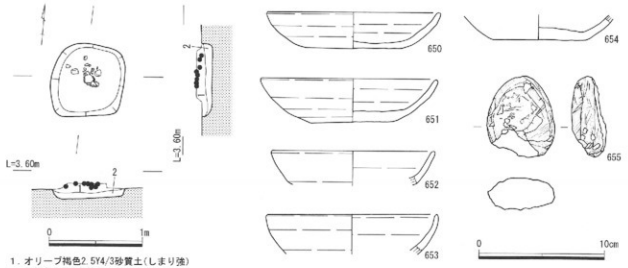
土坑297号（Ⅰ地区　SK1297）（第294図）

Ⅰ－７区中央部，m20・１グリッドに位置する，長軸88cm 短軸84cm 深度42cm を測る不整形土坑。断面は不整な逆台形状で，中央部に浅い落ち込みを有する。埋土は２層に分層できる。

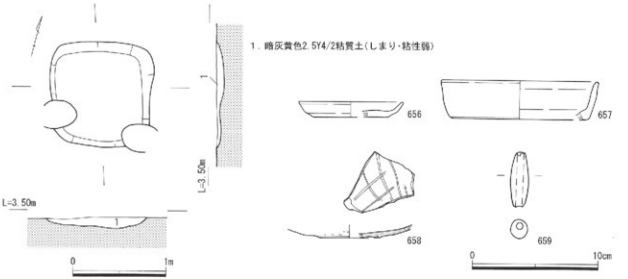
遺物は第２層に集中し，土師質土器片・鍋，瓦器椀・皿，被熱砂岩礫が出土。666は瓦器皿。底部内面に平行ヘラミガキ暗文を施す。炭素吸着は良好である。和泉型とみられⅢ－３期前後に併行する時期と考えられる。667・668は瓦器椀。667は口径15.9cm を測る。体部内外面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着は良好である。和泉型瓦器椀Ⅱ－３～Ⅲ－１期に相当し，12世紀中葉～後葉の年代が与えられる。668は口径13.6cm を測る。体部内面に横位のヘラミガキを施す。炭素吸着は不良である。和泉型瓦器椀Ⅲ－３期に相当し，13世紀前葉の年代が与えられる。

土坑302号（Ⅰ地区　SK1302）（第295図）

Ⅰ－７区西部中央，k17・18グリッドに位置する，長軸112cm 短軸108cm 深度34cm を測る隅丸方形土坑。断面は方形で，埋土は３層に分層できる。中央西寄りに浅い落ち込みがある。遺物は土師質土器片・鍋，瓦器椀，瓦質土器甕，須恵質土器甕（平行タタキ）が出土。669は瓦質土器甕。体部外面下端



第290図　Ⅰ地区 SK1287遺構・遺物実測図



第291図　Ⅰ地区 SK1294遺構・遺物実測図

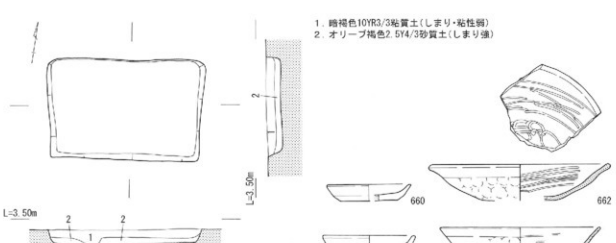
に粘土紐の継目が明瞭に残る。胎土は精良である。炭素吸着はやや不良。遺構の年代は，出土遺物から12世紀後葉～13世紀代と考えられる。

土坑304号（Ⅰ地区　SK1304）（第296図）

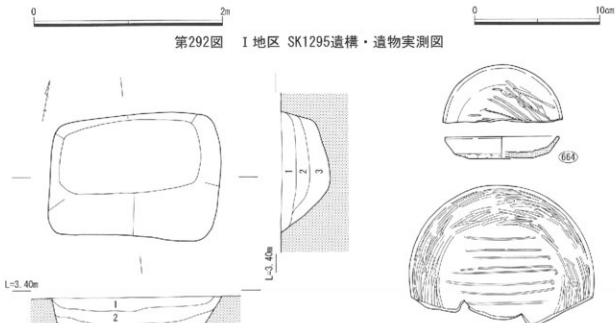
Ⅰ－７区西部中央，ｋ18グリッドに位置する，長軸116cm 短軸110cm 深度36cm を測る不整形土坑。断面は逆台形状で，埋土は３層に分層。中央西寄りに浅い落ち込みがある。遺物は土師質土器片・鍋，瓦器椀，須恵質土器捏鉢，鉄滓が出土。670は東播系の須恵質土器捏鉢。底部外面に回転糸切り痕を残す。内面は使用によって磨耗。遺構の年代は，出土遺物から概ね13世紀代と考えられる。

土坑310号（Ⅰ地区　SK1310）（第297～299図）

Ⅰ－７区中央部，ｌ20グリッドに位置する，長軸103cm 短軸83cm 深度39cm を測る不整な隅丸方形土



第292図　Ⅰ地区 SK1295遺構・遺物実測図



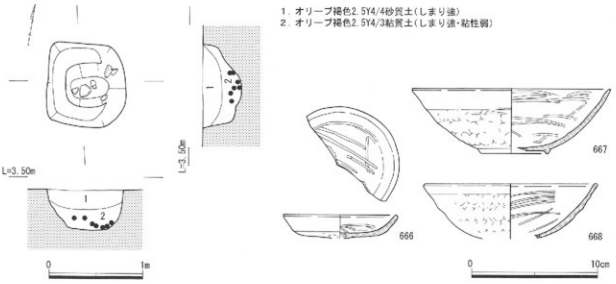
第293図　Ⅰ地区 SK1296遺構・遺物実測図

坑。断面は逆台形状で，埋土は２層に分層。

遺物は第１層に集中し，土師質土器片・杯（回転糸切り・手捏ねほか）・皿・土錘，瓦器椀，須恵質土器甕（平行タタキ），羽口，鉄滓，砂岩製叩石，凝灰岩製砥石が出土。なかでも底部外面に回転糸切り痕を伴う土師質土器杯の出土数量は多く，完形品が多い。

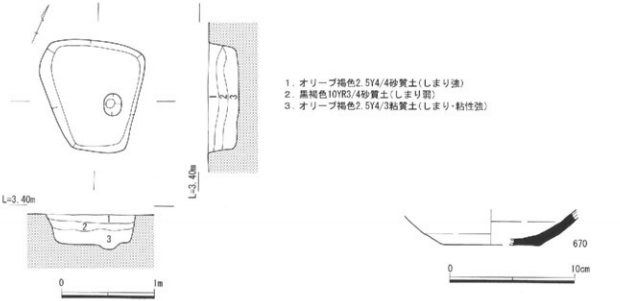
671～678は土師質土器皿で，底部外面に回転糸切り痕を残す。672・675・676は底部外面中央付近に焼成後穿孔を施すが，いずれも未貫通である。胎土は671・673・674・676でチャートを含む。

679～711は回転台成形の土師質土器杯。707～709を除いて底部外面に回転糸切り痕を残し，うち



第294図　Ⅰ地区 SK1297遺構・遺物実測図

第295図　Ⅰ地区 SK1302遺構・遺物実測図



第296図　Ⅰ地区 SK1304遺構・遺物実測図

679・681～686・688・690は板目痕を伴う。710・711は底部外面中央付近に焼成後穿孔を施すが，いずれも未貫通である。胎土は681～685・687・689～691・695・703・710・711でチャートを含む。684・685は泥岩を含む。683は石灰岩とみられる粒子を含む。687・708は花崗岩を含むが，瀬戸内産ではなく阿南市大野町城山などでみられる花崗閃緑岩の一種と考えられ，以降「在地花崗岩」と呼称する。712は非回転台成形の土師質土器杯。底部外面に指頭圧痕を残す。京都系土師器皿Dタイプの模倣品とみられ，13世紀代の年代が与えられる。

713は瓦器椀。口径14.4cm を測る。磨耗によりヘラミガキは確認できない。炭素吸着はやや不良で，内外面とも重焼痕を伴う。和泉型瓦器椀Ⅲ－３期に相当し，13世紀前葉の年代が与えられる。714は須恵質土器甕の体部。外面に細かな平行タタキを施し，内面は同心円状当具痕のち横位のハケを施す。東播系とみられる。715は土師質管状土錘。716は土師質の轆轤口で，径約９cm 孔径2.5cm を測る。先端部は鉄滓が付着し，端部に行くほど被熱する。胎土にチャートを含む。

717は砂岩製凹石。打撃によるものか欠損部があり，欠損部の縁は使用によってやや丸みを帯びる。718は凝灰岩製砥石で，岩石中に石英・長石・角閃石・金雲母を含む。３面を砥面として使用し，非常に肌理細かい。破面との境はエッジが緩く，破損後も使用されたと考えられる。

遺構の年代は，出土遺物から13世紀代と考えられる。

土坑318号（Ⅰ地区　SK1318）（第300図）

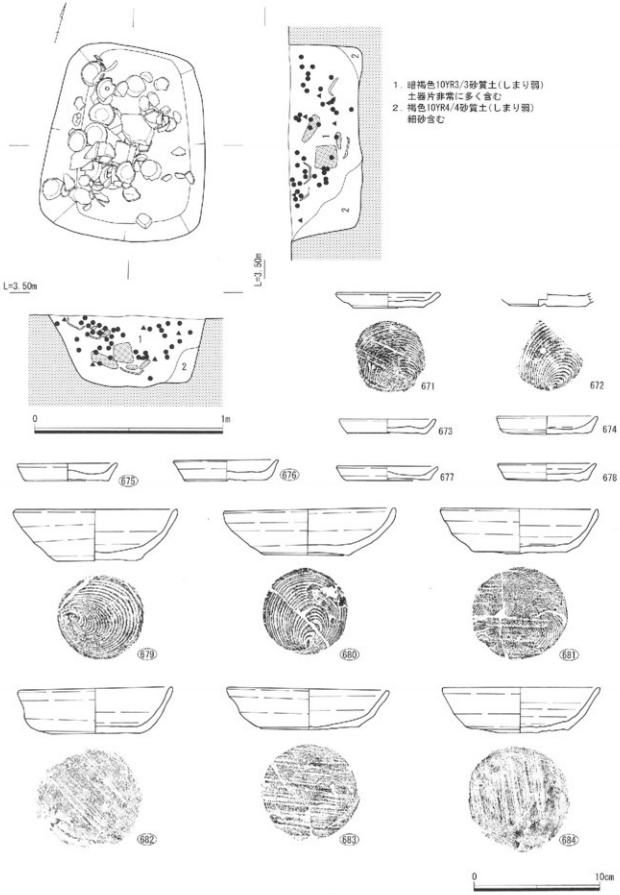
Ⅰ－７区中央部南側，ｊ19グリッドに位置する，長軸136cm 短軸88cm 深度20cm を測る隅丸方形土坑。断面は逆台形状で，埋土は１層である。

遺物は土師質土器片，瓦器椀，青白磁合子，青磁碗（同安窯系），須恵質土器捏鉢が出土。719は瓦器椀。口径14.0cm を測る。体部内外面のヘラミガキは確認できない。底部内面に平行ヘラミガキ暗文を施すが，疎が細く方向が一定しない。炭素吸着は不良である。和泉型瓦器椀Ⅳ－１期に相当し，13世紀中葉の年代が与えられる。720は青白磁合子身。体部外面は輪花の型押しで作る。内面・体部外面に施釉され，底部外面は露胎である。釉に粗い貫入を伴う。遺構の年代は，出土遺物から13世紀代の年代が与えられる。

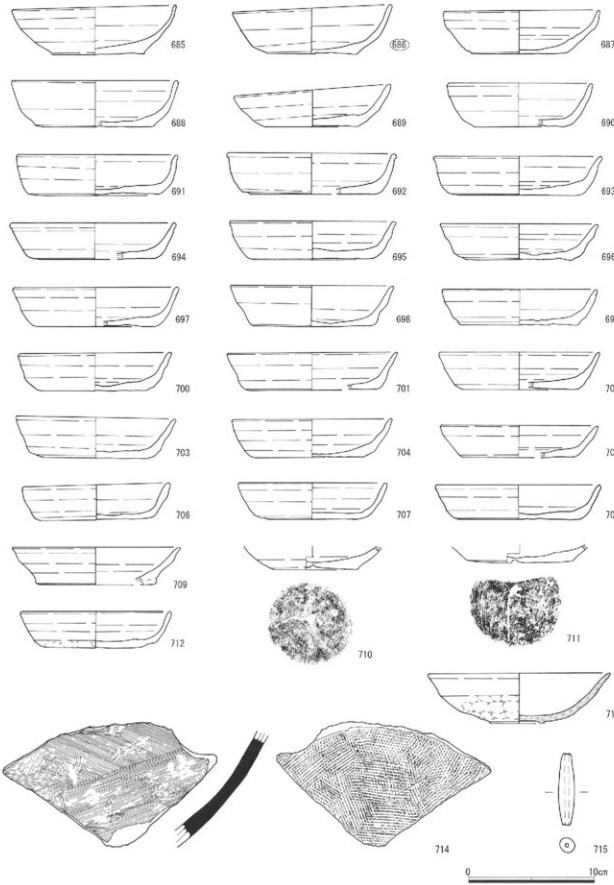
土坑325号（Ⅰ地区　SK1325）（第301図）

Ⅰ－７区西部南側，ｊ18グリッドに位置し，東は遺構に切られる。長軸残存長196cm 短軸92cm 深度26cm を測る不整な長方形土坑。所面は逆台形状で，埋土は４層である。

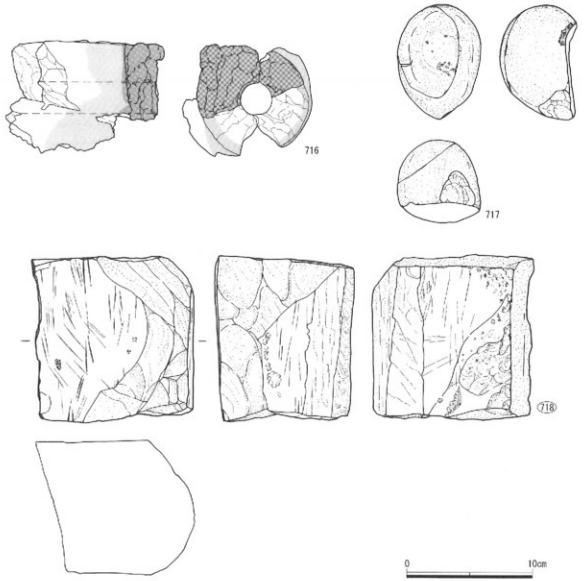
遺物は弥生土器壺，土師質土器片・椀・杯（回転糸切り）・皿・鍋，瓦器椀・皿，須恵質土器貯蔵具・捏鉢が出土。721は回転台成形の土師質土器杯。底部外面に回転糸切り痕を残す。722は非回転台成形の土師質土器杯で，底部外面に指頭圧痕を残す。京都系土師器皿Dタイプの模倣品とみられる。723は瓦器皿。体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着は不良である。和泉型瓦器Ⅲ－３期前後に併行か。724・725は瓦器椀。724は口径15.4cm を測り，体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着はやや不良で，酸化炎焼成される。725は口径13.6cm を測る。体部外面に粘土接合痕が明瞭に残り，体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。724・725とも和泉型瓦器椀Ⅳ－１期に相当するとみられ，13世紀中葉の年代が与えられる。遺構の年代は，出土遺物から13世紀代と考えられる。



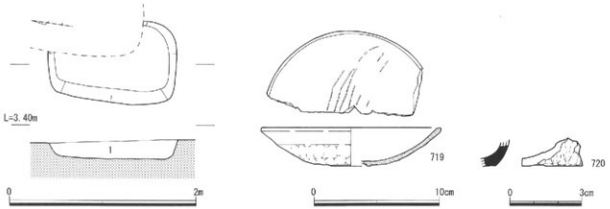
第297図　Ⅰ地区 SK1310遺構・遺物実測図（1）



第298図　Ⅰ地区 SK1310遺物実測図（２）



第299図　Ⅰ地区 SK1310遺物実測図（３）



1．暗褐色10YR3/3粘質土（しまり・粘性強）

第300図　Ⅰ地区 SK1318遺構・遺物実測図

土坑326号（Ⅰ地区　SK1326）（第302図）

Ⅰ－7区西部南側，j18グリッドに位置する．長軸128cm 短軸90cm 深度26cm を測る長方形土坑．断面は逆台形状で，埋土は1層である．底面の一部に浅い落ち込みがある．

遺物は土師質土器片・杯・鍋，瓦器椀，須恵質土器貯蔵具，白磁壺が出土．726は白磁壺の頸部．胎土は灰色がかり，微細な黒斑をわずかに含む．大宰府分類の白磁壺Ⅲ－3類，13世紀後半～14世紀前半とみられる．727は遺構南東隅の底面付近から出土した完形の土師質土器杯底部外面に回転糸切り痕を残す．遺構の年代は，出土遺物から13世紀後半と考えておく．

土坑327号（Ⅰ地区　SK1327）（第303図）

Ⅰ－7区西部南側，j18グリッドに位置する．長軸126cm 短軸118cm 深度34cm を測る不整形土坑．断面は方形で，埋土は3層に分層できる．

遺物は土師質土器椀・杯（回転糸切り）・皿・鍋，瓦器椀，須恵質土器捏鉢・貯蔵具（平行タタキ），陶器片・擂鉢，白磁片，鉄滓が出土．728・729は土師質土器杯で，底部外面に回転糸切り痕を残す．728の胎土には金雲母および泥岩とみられる粒子を含む．593は瓦器椀．口径14.0cm を測る．体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す．炭素吸着は良好であるが，口縁のみ重焼のため吸着不良である．和泉型瓦器椀Ⅲ－3期に相当し，13世紀前葉の年代が与えられる．

土坑332号（Ⅰ地区　SK1332）（第304図）

Ⅰ－7区西部南側，i17グリッドに位置し，西は遺構に切られる．長軸残存長86cm 短軸58cm 深度26cm を測る不整楕円形土坑．断面は逆台形状で，埋土は2層に分層できる．遺物は土師質土器片・杯・皿（回転糸切り），瓦器椀，須恵質土器捏鉢，備前陶器片が出土．731は東播系の須恵質土器捏鉢．回転台成形で，口縁端部の肥厚は小さい．焼成やや不良で，重焼によって口縁内外面に炭素付着する．森田編年第Ⅱ期第2段階に相当し，12世紀末～13世紀初頭の年代が与えられる．

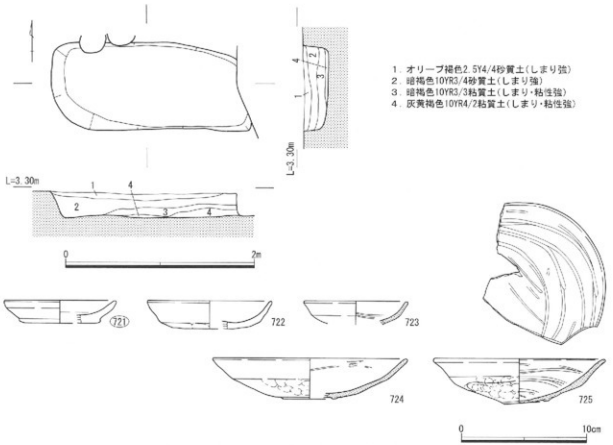
土坑343号（Ⅰ地区　SK1343）（第305図）

Ⅰ－7区中央部，m20グリッドに位置する，長軸72cm 短軸60cm 深度20cm を測る不整形土坑．断面は逆台形状で，中央に上からの掘削による浅い落ち込みがある．遺物は土師質土器片・杯・皿（回転糸切り）・鍋，瓦器椀，須恵質土器貯蔵具（格子タタキ），青磁片，近世瀬戸陶磁片，鉄釘，鉄滓が出土．732・733は土師質土器皿．732は底部外面に回転糸切り痕を残す．733は非回転台成形とみられる．遺構の年代は，出土遺物に時期幅があるが概ね13世紀代と考えられる．

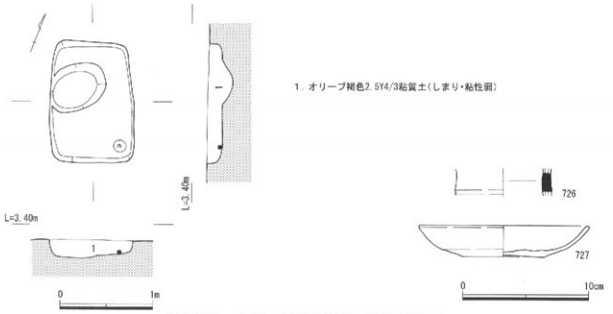
土坑349号（Ⅰ地区　SK1349）（第306図）

Ⅰ－8区中央部南側，o18・19グリッドに位置する，長軸132cm 短軸122cm 深度36cm を測る不整形土坑．断面は逆台形状で，埋土は3層に分層できる．

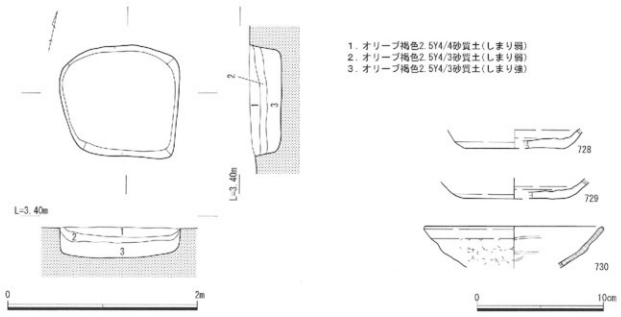
遺物は土師質土器片・杯（回転糸切り・手捏ねほか）・土錘，瓦器椀・皿，須恵質土器貯蔵具（平行タタキ），焼土ブロック，骨片が出土．734・735は非回転台成形の土師質土器杯で，底部外面に指頭圧痕が残る．ともに京都系土師器皿Dタイプの模倣品とみられるが，734は少量ながら胎土に金雲母を含むため搬入品である可能性も残る．13世紀代の年代が与えられる．736は瓦器椀．ほぼ完形で，口径14.0



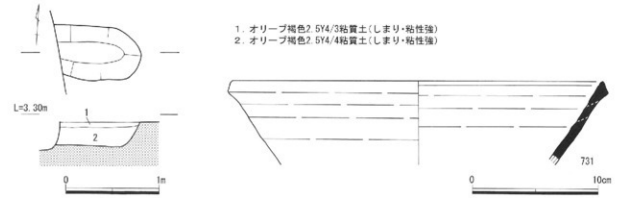
第301図　Ⅰ地区 SK1325遺構・遺物実測図



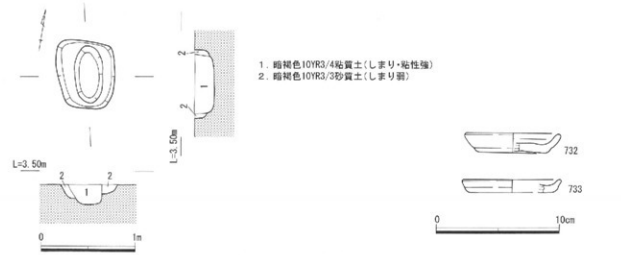
第302図　Ⅰ地区 SK1326遺構・遺物実測図



第303図　Ⅰ地区 SK1327遺構・遺物実測図



第304図　Ⅰ地区 SK1332遺構・遺物実測図



第305図　Ⅰ地区 SK1343遺構・遺物実測図

cmを測る。体部外面に粘土接合痕を残し，体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着はやや不良で，外面に重焼痕を伴う。和泉型瓦器椀Ⅲ－３期に相当し，13世紀前葉の年代が与えられる。

土坑352号（Ⅰ地区　SK1352）（第307図）

Ⅰ－８区西部南側，ｐ18グリッドに位置する，長軸138cm短軸102cm深度18cmを測る不整な隅丸方形土坑。断面は逆台形状で，底面はやや起伏がある。埋土は１層。遺物は土師質土器片・皿・鍋，瓦器椀，須恵質土器片が出土。737は土師質土器皿で，底部外面に回転糸切り痕を残す。全体的に器壁薄い。胎土にチャートを含むとみられる。738は瓦器椀で口径12.8cmを測る。体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着良好。和泉型瓦器椀Ⅳ－１～２期，13世紀中葉～後葉の年代が与えられる。

土坑355号（Ⅰ地区　SK1355）（第308図）

Ⅰ－８区西部中央，ｑ17・18グリッドに位置する，長軸170cm短軸120cm深度26cmを測る長方形土坑。断面は逆台形状で，埋土は２層に分層できる。

遺物は土師質土器片・杯・皿（回転糸切り・手捏ねほか）・鍋，瓦器椀，炭化物片が出土。739は非回転台成形とみられる土師質土器皿。胎土は粗めである。740は回転台成形の土師質土器皿。底部外面に回転糸切り痕を残す。741は瓦器椀。口径14.4cmを測るが小片のため径や傾きは不正確である。体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着は良好である。和泉型瓦器椀Ⅲ－３期に相当し，13世紀前葉の年代が与えられる。遺構の年代は，出土遺物から13世紀代と考えられる。

土坑372号（Ⅰ地区　SK1372）（第309図）

Ⅰ－８区東部南側，ｑ・ｒ１グリッドに位置する，長軸200cm短軸106cm深度10cmを測る不整な長方形土坑。断面は浅い皿状で，埋土は１層である。出土遺物は１点のみで，742は瓦器椀。口径13.7cmを測る。磨耗によりヘラミガキは確認できない。炭素吸着は不良である。胎土はやや粗い。和泉型瓦器椀Ⅲ－３～Ⅳ－１期に相当するとみられ，13世紀前葉～中葉の年代が与えられる。

土坑378号（Ⅰ地区　SK1378）（第310図）

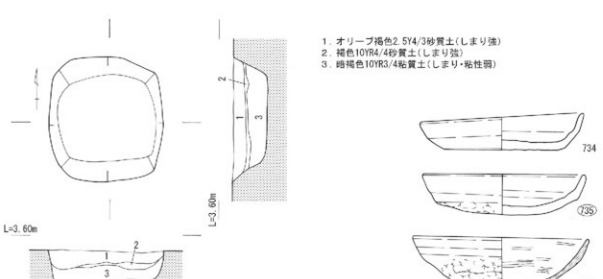
Ⅰ－８区東部南側，ｒ２グリッドに位置する，長軸58cm短軸50cm深度18cmを測る円形土坑。断面は逆台形状で，埋土は３層に分層できる。出土遺物は１点のみで，743は土師質土器杯で，底部外面に回転糸切り痕を残す。胎土は粗く，在地花崗岩やチャートを含む。概ね12～13世紀代の年代が与えられる。

土坑384号（Ⅰ地区　SK1384）（第311図）

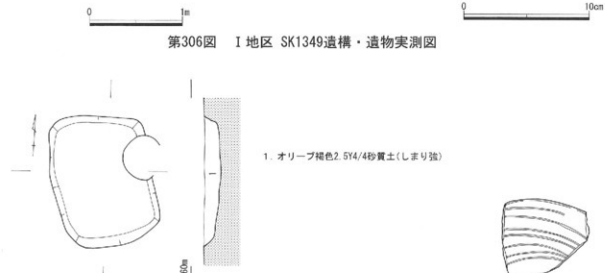
Ⅰ－８区東部北側，ａ20・１グリッドに位置する，長軸182cm短軸102cm深度12cmを測る長方形土坑。断面は浅い逆台形状で，埋土は１層である。遺物は２点のみで，744・745は須恵器杯蓋。744は天井部外面を平坦に作る。745はドーム状の膨らみをもつ。

土坑385号（Ⅰ地区　SK1385）（第312図）

Ⅰ－８区東部北側，ａ１グリッドに位置する，長軸130cm短軸128cm深度44cmを測る不整方形土坑。断面はエッジの緩い逆台形状で，埋土は３層に分層できる。遺物は土師器皿，土師質土器片が出土。746は土師器皿。口縁内面は強いヨコナデによって凹線状に作る。体部外面下端は手持ちヘラケズリを施す。



第306図　Ⅰ地区 SK1349遺構・遺物実測図

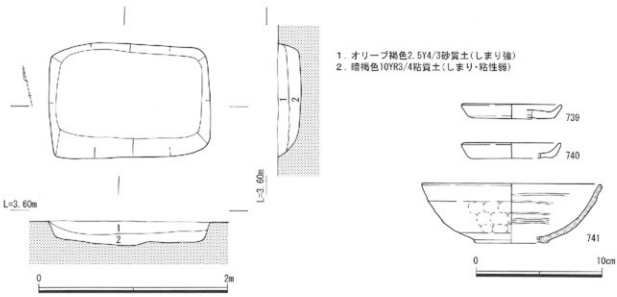


第307図　Ⅰ地区 SK1352遺構・遺物実測図

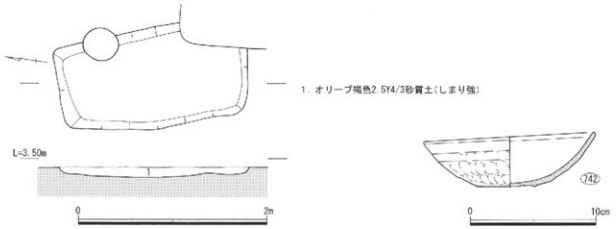
体部内面に放射状暗文を施す。8～9世紀代とみられる。

土坑413号（Ⅰ地区　SK1413）(第313図)

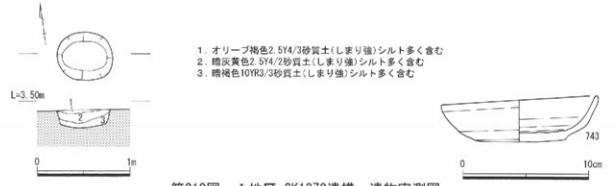
Ⅰ－9区西部南側，n4グリッドに位置し，東は遺構に切られる。長軸残存長88cm 短軸68cm 深度16cmを測る長方形土坑。断面は逆台形状で，埋土は2層に分層できる。遺物は土師質土器片，瓦器椀，緑釉陶器碗か皿が出土。747は緑釉陶器碗か皿。底部外面に断面逆台形状の輪高台を貼り付ける。釉は薄く，内面と体部外面～高台外側まで施釉され，畳付から内側は露胎である。素地は軟質焼成である。京



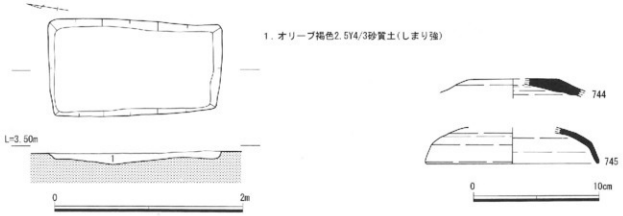
第308図　Ⅰ地区 SK1355遺構・遺物実測図



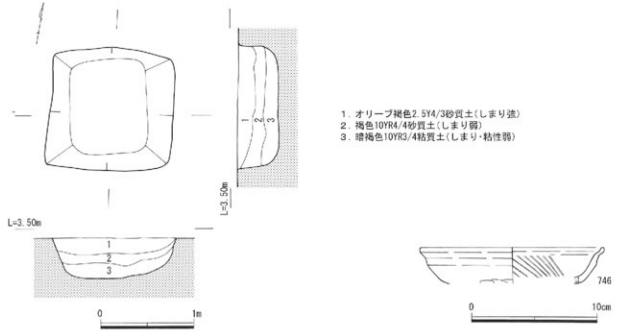
第309図　Ⅰ地区 SK1372遺構・遺物実測図



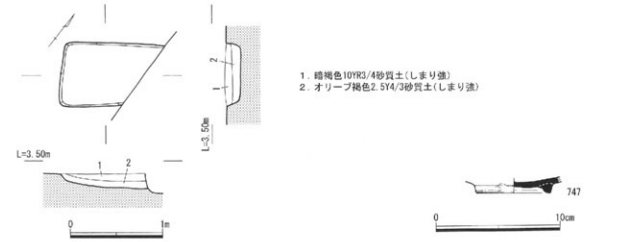
第310図　Ⅰ地区 SK1378遺構・遺物実測図



第311図　Ⅰ地区 SK1384遺構・遺物実測図



第312図　Ⅰ地区 SK1385遺構・遺物実測図



第313図　Ⅰ地区 SK1413遺構・遺物実測図

都産とみられ，高橋編年前Ⅰ期に相当し，8世紀末～9世紀初頭の年代が与えられる。

土坑425号（Ⅰ地区　SK1425）（第314図）

Ⅰ－9区西部南端，m5グリッドに位置する，長軸118cm 短軸108cm 深度18cm を測る不整方形土坑。断面は不整な逆台形状で，埋土は2層に分層できる。

遺物は土師質土器片・杯・皿（回転糸切り・回転ヘラ切り）・鍋・羽釜・土錘，瓦器椀・皿，須恵質土器貯蔵具（平行タタキ），鉄釘か，鉄滓が出土。748・749は土師質土器皿。ともに回転台成形で，748は底部外面に回転糸切り痕を残す。750は瓦器椀。口径13.5cm を測るが，小片のため法量は不正確。体部内面に横位のヘラミガキ，底部内面に平行ヘラミガキ暗文を施す。炭素吸着やや不良。和泉型瓦器椀Ⅲ－3期，13世紀前葉とみられる。

土坑435号（Ⅰ地区　SK1435）（第315図）

Ⅰ－9区中央部南端，n7グリッドに位置する，長軸156cm 短軸108cm 深度26cm を測る隅丸長方形土坑。断面は逆台形状で，埋土は4層に分層できる。

遺物は須恵器供膳具，土師質土器片・杯（回転糸切り・回転ヘラ切り）・鍋，瓦器椀・皿，須恵質土器貯蔵具，近世磁器，鉄製品・釘，鉄滓が出土。751は瓦器Ⅲ。体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着は不良で灰白色を呈する。和泉型瓦器のⅣ期併行と考えられる。752は棒状の鉄製品で，鏃の可能性がある。両端部を欠き，残存長9.4cm 1.5～2.0cm 角の方形断面である。遺構の年代は，出土遺物から13世紀代と考えられる。

土坑465号（Ⅰ地区　SK1465）（第316図）

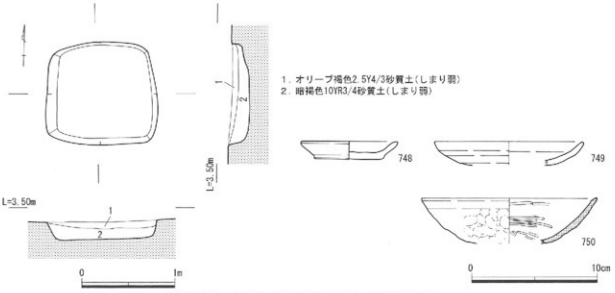
Ⅰ－9区東部中央，q8・9グリッドに位置する，長軸88cm 短軸86cm 深度30cm を測る不整円形土坑。断面は逆台形状で，中央部に浅い落ち込みをもつ。埋土は4層に分層できる。遺物は土師質土器片・杯・高台付杯・皿・鍋，瓦器椀，塩土，炭化物片が出土。753は瓦器椀で，口径15.0cm を測る。内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着はみられず，酸化炎焼成される。二次的な被熱によるカーボン消失の可能性あり。和泉型瓦器椀Ⅲ－3期に相当するとみられ，13世紀前葉の年代が与えられる。

土坑475号（Ⅰ地区　SK1475）（第317図）

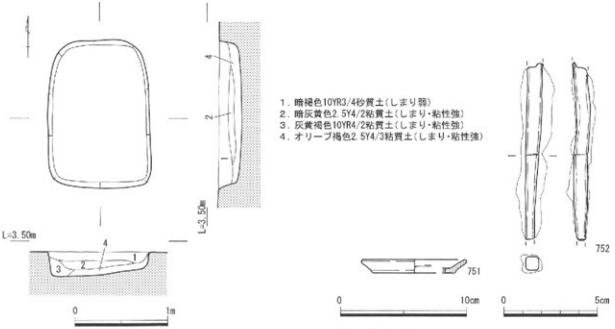
Ⅰ－9区東部中央，r・s9グリッドに位置する，長軸110cm 短軸60cm 深度26cm を測る不整長方形土坑。断面は逆台形状で，中央南寄りに一段の落ち込みを有する。埋土は3層。遺物は須恵器杯，土師質土器片・皿・鍋，瓦器椀，鉄製紡錘車が出土。754は土師質土器Ⅲで，底部外面に回転糸切り痕を残す。755は鉄製の紡錘車。遺構中央西寄り，第2層から出土した。残存長15.9cm，軸は断面7㎜角の方形，円盤部は径5.0cm を測る。遺構の時期は，出土遺物から概ね13世紀頃と考えられる。

土坑496号（Ⅰ地区　SK1496）（第318図）

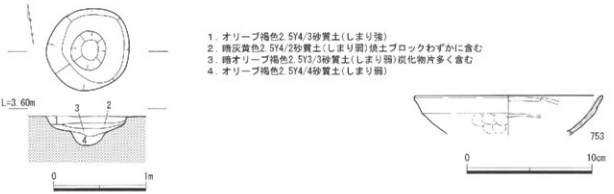
Ⅰ－9区東部北側，t8グリッドに位置する，長軸86cm 短軸82cm 深度10cm を測る隅丸方形土坑。断面は浅い逆台形状で，埋土は2層に分層できる。遺物は土師質土器片・杯（回転糸切り）・鍋，瓦器椀・皿，須恵質土器貯蔵具（平行タタキ）が出土。756は瓦器皿。体部内面に粗い横位のヘラミガキ，底部



第314図　Ⅰ地区 SK1425遺構・遺物実測図



第315図　Ⅰ地区 SK1435遺構・遺物実測図



第316図　Ⅰ地区 SK1465遺構・遺物実測図

内面にランダムなヘラミガキ暗文を施すが，連結輪状を意識した可能性もある。和泉型瓦器のⅢ－3～Ⅳ－1期併行期と考えられる。遺構の時期は，出土遺物から概ね13世紀代と考えられる。

土坑497号（Ⅰ地区　SK1497）（第319図）

Ⅰ－9区東部北側，ｔ8グリッドに位置する，長軸250cm 短軸120cm 深度28cm を測る不整長方形土坑。断面は不整な逆台形状で，埋土は4層に分層できる。

遺物は土師質土器片・皿・杯（回転糸切り）・鍋，瓦器椀・皿，須恵質土器貯蔵具（平行タタキ），瓦質土器煮炊具か（格子タタキ），銭貨（北宋銭），鉄滓，凝灰岩製砥石が出土。757は回転台成形の土師質土器皿。758は土師質土器杯で，底部外面に回転糸切り痕のち板目痕を残す。759・760は瓦器皿。体部内面に横位のヘラミガキを施す。760は底部内面の一部にもヘラミガキを施すが，暗文状ではない。ともに炭素吸着はやや不良。和泉型瓦器のⅢ－3～Ⅳ－1期に併行する時期と考えられる。761～763は銅銭で，すべて北宋銭。761は熙寧元寶の真書体で，1068年初鋳。輪の一部を欠く。762は元豊通寶の篆書体で，1078年初鋳。背は闕縁である。左下部を欠く。763は政和通寶の篆書体で，1111年初鋳。背に別個体の密着痕がある。輪の一部を欠く。764は凝灰岩製の砥石。2面を砥面として使用する。側面と上端面に切断痕を残す。遺構の時期は，出土遺物から概ね13世紀代頃と考えられる。

土坑508号（Ⅰ地区　SK1508）（第320図）

Ⅰ－9区東部北側，ｔ8グリッドに位置する，長軸104cm 短軸52cm 深度16cm を測る楕円形土坑。断面は逆台形状で，南側に浅い落ち込みを有する。埋土は3層に分層できる。

遺物は土師質土器片，瓦器椀，銭貨が出土。765は瓦器椀。口径11.6cm を測るが，歪みのため法量は不正確。体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着はやや不良。和泉型瓦器椀Ⅳ－2期前後とみられ，13世紀後葉の年代が与えられる。766・767は銅銭。766は北宋銭の大観通寶で，1107年初鋳。全体的に劣化が激しく，縁端部を欠く。767は銭文4文字であるが，鋳り浅く劣化激しいため判読不能。輪は欠損し，一部を残すのみである。鋳写しを繰り返した私鋳銭の可能性がある。

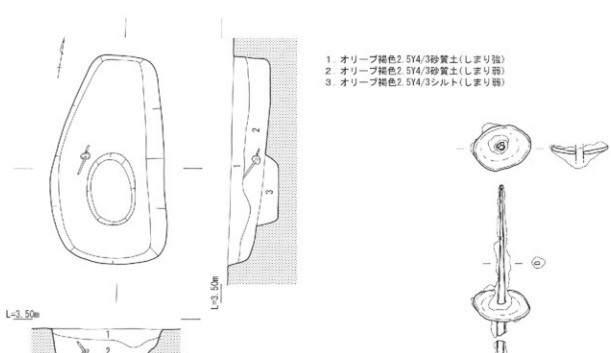
土坑515号（Ⅰ地区　SK1515）（第321図）

Ⅰ－9区中央部，ｑ・ｒ7グリッドに位置する，長軸136cm 短軸126cm 深度10cm を測る方形土坑。断面は浅い逆台形状で，埋土は1層である。

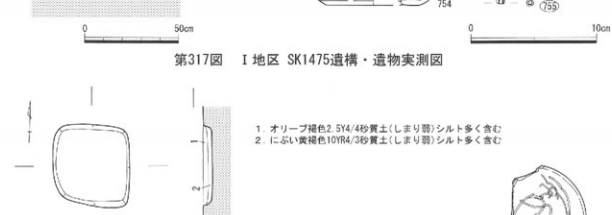
遺物は土師質土器片・鍋・土錘，瓦器椀が出土。768・769は瓦器椀。768は口径15.8cm を測る。体部内面に横位のヘラミガキ，底部内面に連結輪状とみられるヘラミガキ暗文を施す。炭素吸着は不良で，酸化炎焼成気味である。紀伊型瓦器椀とみられ，和泉型瓦器Ⅲ－3期併行期，13世紀前葉とみられる。769は口径12.8cm を測る。体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着は良好である。和泉型瓦器椀Ⅳ－2期前後とみられ，13世紀後葉の年代が与えられる。770は土師質管状土錘。胎土に在地化崗岩・泥岩とみられる粒子を含む。

土坑517号（Ⅰ地区　SK1517）（第322図）

Ⅰ－9区中央部，ｒ6グリッドに位置する，長軸160cm 短軸104cm 深度22cm を測る不整な隅丸方形土坑。断面は浅く緩い逆台形状で，西側に狭い段を有する。埋土は3層に分層できる。遺物は須恵器片，



第317図　Ⅰ地区 SK1475遺構・遺物実測図



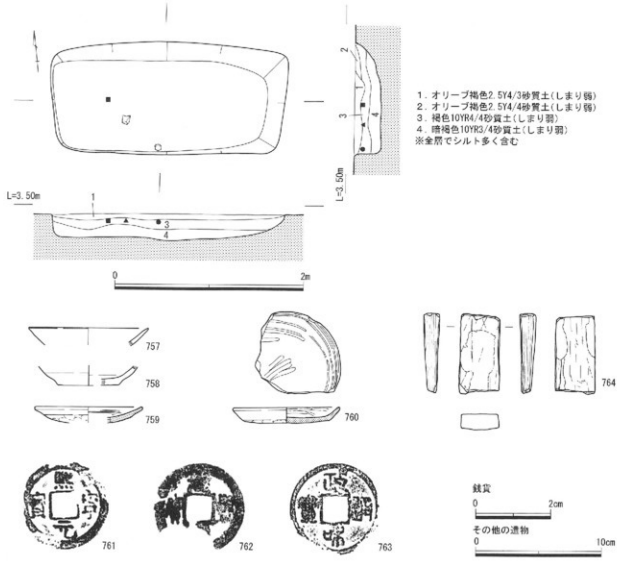
第318図　Ⅰ地区 SK1496遺構・遺物実測図

土師質土器片・杯（回転糸切り）・皿・鍋，瓦器椀，須恵質土器貯蔵具，鉄製品片，鉄滓が出土。771は土師質土器皿。非回転台成形とみられる。遺構の年代は，出土遺物から概ね13世紀頃と考えられる。

土坑519号（Ⅰ地区　SK1519）(第323図)

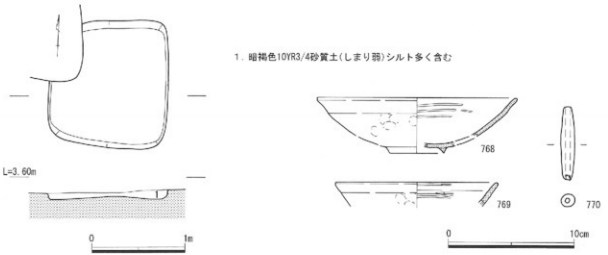
Ⅰ－９区西部北側，ｒ６グリッドに位置する，長軸140cm 短軸72cm 深度30cm を測る隅丸長方形土坑。断面は逆台形状で，南寄りに浅い落ち込みを有する。埋土は４層に分層できる。

遺物は土師質土器片・杯・皿（回転糸切り）・鍋，瓦器椀が出土。772・773は回転台成形の土師質土

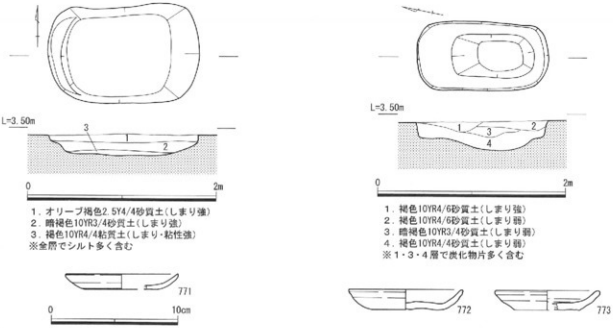


第319図　Ⅰ地区 SK1497遺構・遺物実測図

第320図　Ⅰ地区 SK1508遺構・遺物実測図

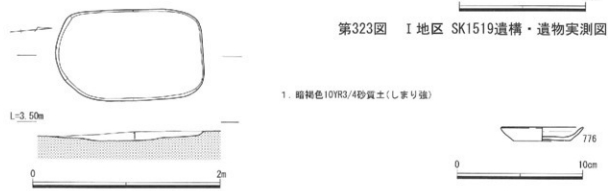


第321図　Ⅰ地区 SK1515遺構・遺物実測図



第322図　Ⅰ地区 SK1517遺構・遺物実測図

第323図　Ⅰ地区 SK1519遺構・遺物実測図



第324図　Ⅰ地区 SK1529遺構・遺物実測図

器皿。底部外面に回転糸切り痕を残し，773は板目痕が残る。774は非回転台成形とみられる土師質土器皿。775は瓦器椀の底部で，外面に断面三角形の低い高台を貼り付ける。底部内面に平行ヘラミガキ暗文を施す。炭素吸着は良好である。和泉型瓦器椀Ⅲ－２～３期に相当し，12世紀末～13世紀前葉の年代が与えられる。遺構の年代は，出土遺物から12世紀後葉～13世紀代と考えられる。

土坑529号（Ⅰ地区　SK1529）（第324図）

Ⅰ－９区西部中央，ｐ５グリッドに位置する，長軸156cm 短軸96cm 深度８cm を測る不整な隅丸方形土坑。断面は浅い皿状で，埋土は１層である。遺物は土師質土器片・皿，瓦器椀，鉄滓が出土。776は土師質土器皿で，底部外面に回転糸切り痕のち板目痕を残す。遺構の年代は，出土遺物から12世紀後葉～13世紀代と考えられる。

土坑533・534号（Ⅰ地区　SK1533・1534）（第325～328図）

Ⅰ－９区西部中央，ｐ４・５グリッドに位置する。２基合わせて一体の遺構であると考えられるため，合わせて記述する。

SK1533は，長軸288cm 短軸230cm 深度50cm を測る不整な隅丸方形土坑。断面は逆台形状で，東側に狭小な段を有する。埋土は７層に分層でき，焼土ブロック・炭化物片を多量に含む。焼土ブロックは壁体や天井部の崩落したものか，SK1534の崩落部を掻き寄せたものとみられる。壁面や底面の被熱痕は弱く，SK1534に近い部分で若干暗褐色を呈する。遺構中央部の埋土上位の１～３層を中心に，10～30cm 前後の礫を約10点検出した。配置に規則性は見いだせず，786など一部を除き明瞭な被熱痕は確認できない。多くは焼土ブロックの上に乗っていることから遺構埋没の終盤に投げ入れたものと考えられる。

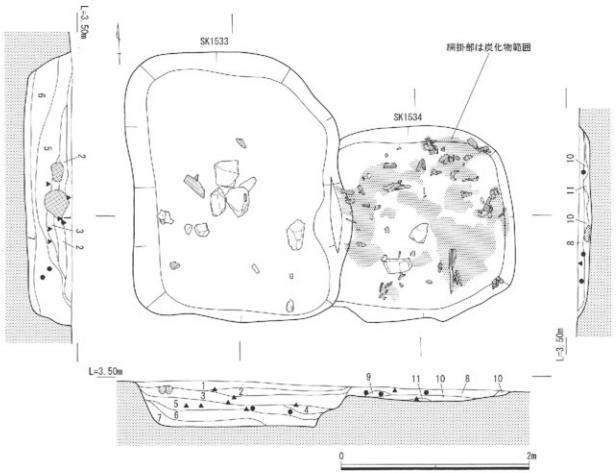
SK1534は長軸206cm 短軸182cm 深度14cm を測る不整な方形土坑。断面は浅い皿状で，埋土は４層に分層できる。底面直上で炭化物片が多量に出土した。炭化材の一部は東西や南北を向くものがあり，格子状に組まれていた可能性を示す。礫が２点の炭化物の直上に乗った状態で検出され，配置に規則性は見いだせず，明瞭な被熱痕は確認できない。

以上の知見から，SK1533を燃焼部兼灰原，SK1534を焼成部とした焼成窯ではないかと考えられる。通常の土器焼成窯であれば灰原などに多量の焼成不良品を廃棄するが，本遺構ではそのような出土遺物を伴わない。窯構造についても，本県での中世土器焼成窯の多くが煙管窯であるが，本遺構は明瞭な焚口を持たない。焼成部床面は平坦で明瞭なロストルを伴わない。また木炭窯の場合，本県では長大な隅丸長方形の半両形を呈し，一端に煙出しとみられる小ピットを伴う事例が多く，本遺構とは構造が異なる。このため本遺構が土器の焼成窯であるのか，木炭窯であるのかは現時点では判断できない。

SK1533の出土遺物は，須恵器杯，土師質土器片・杯・皿（回転糸切り）・鍋・捏鉢・上錘，瓦器椀，瓦質土器壺・鍋・煮炊具・捏鉢，須恵質土器捏鉢・壺・貯蔵具（平行タタキ），青磁碗，白磁碗，陶器片，焼土ブロック，炭化物片，瓦片，砂岩製砥，鉄釘・鉄製品片，鉄滓，サヌカイト製石器，被熱礫（砂岩・結晶片岩）がある。

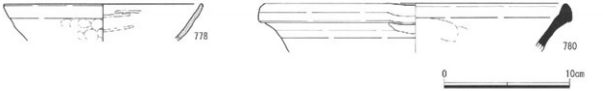
777は土師質土器杯で，底部外面に回転糸切り痕を残す。778は瓦器椀。口径15.6cm を測るが，小片のため法量は不正確である。体部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着はやや不良である。和泉型瓦器椀Ⅲ－３期に相当するとみられ，13世紀前葉の年代が与えられる。

779は土師質土器捏鉢。口縁は肥厚し，端部を尖り気味に仕上げる。胎土に砂岩とみられる粒子を含



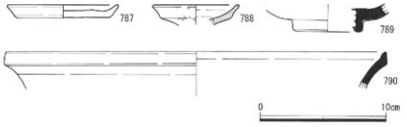
1．にぶい黄褐色10YR4/3砂質土（しまり強）
2．灰黄褐色10YR4/2砂質土（しまり弱）
3．暗灰黄色2.5Y4/2砂質土（しまり弱）
焼土ブロック含む
4．にぶい黄褐色10YR4/3砂質土（しまり弱）
焼土ブロック・炭化物片少量含む
5．にぶい黄褐色10YR4/3砂質土（しまり弱）
焼土ブロック・炭化物片多く含む
6．オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり弱）
炭化物片少量含む
7．暗褐色10YR3/4砂質土（しまり弱）
8．にぶい黄褐色10YR4/3砂質土（しまり強）
焼土ブロック・炭化物片わずかに含む
9．灰黄褐色10YR4/2砂質土（しまり弱）
10．灰黄褐色10YR4/2砂質土（しまり弱）
焼土ブロック・炭化物片多く含む
11．暗褐色10YR3/4砂質土（しまり強）
焼土ブロック・炭化物片多く含む

第325図　Ⅰ地区 SK1533・1534遺構実測図

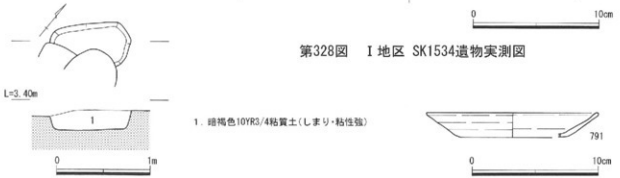


第326図　Ⅰ地区 SK1533遺物実測図（１）

第327図　Ⅰ地区 SK1533遺物実測図（２）



第328図　Ⅰ地区 SK1534遺物実測図



第329図　Ⅰ地区 SK1541遺構・遺物実測図

む。東播系須恵質土器捏鉢の模倣品の可能性あり。780は東播系の須恵質土器捏鉢。体部内面は横位の板ナデ調整する。胎土は粗い。森山編年第Ⅲ期第１段階13世紀前半～後半とみられる。

781・782は畿内山城産の瓦質土器鍋。受口状口縁をもつ。781は炭素吸着やや不良である。胎土は良好で金雲母と角閃石を含む。782の炭素吸着は内面良好で，外面やや不良。被熱によるカーボン消失と考えられる。体部外面に煤付着。胎土は精良で金雲母を含む。13世紀代と考えられる。783は瓦質土器煮炊具の脚部。炭素吸着はやや不良である。胎土は精良。

784は土師質管状土錘。785は鉄釘。頭部を欠き，中途で折り曲がる。残存長5.4cmを測る。786は６層上面から出土した砂岩製砥石。２面を砥面として使用し，側面の一部に敲打痕を伴う。被熱のため部分的に赤変がみられる。

SK1534の出土遺物は，土師質土器片・杯・皿（回転糸切り・回転ヘラ切り）・鍋・擂鉢，瓦器椀・皿，須恵質土器貯蔵具・捏鉢，青磁碗，鉄釘，鉄滓，壁土がある。787は土師質土器皿。非回転台成形で，京都系土師器皿Ｄタイプの模倣品とみられる。13世紀代の年代が与えられる。788は瓦器皿。炭素吸着はやや不良である。和泉型瓦器Ⅳ－１期前後に併行か。789は青磁碗。内外面無文である。釉は透明度が高く，疵付を越えて高台内側に及ぶが，畳付は釉を掻き取らない。胎土は灰色で，微細な黒斑を伴う。大宰府分類龍泉窯系青磁碗Ⅰ－１類が型式上もっとも近いといえるが，すべての要素を満たさない。

790は東播系の須恵質土器捏鉢。森田編年第Ⅱ期第２段階～第Ⅲ期第１段階に相当し，12世紀末～13世紀後半の年代が与えられる。

遺構の年代は，出土遺物が示す時期は概ね13世紀代で，14世紀より新しくなることは考えにくい。しかし調査時に行った熱残留磁気による年代測定では，1350年±25年という結果を得ており，遺物年代との時期差は最小で25年，最大では１世紀以上に及ぶ。

土坑541号（Ⅰ地区　SK1541）（第329図）

Ⅰ－９区東部中央，ｓ８グリッドに位置する。長軸86cm短軸46cm深度22cmを測る不整楕円形土坑。断面は逆台形状で，埋土は１層である。遺物は土師質土器片・杯・皿・鍋・甕，瓦器椀，須恵質土器捏鉢・貯蔵具，鉄釘，鉄滓，炭化物片が出土。791は土師質土器皿。非回転台成形の可能性がある。遺構の年代は，出土遺物から概ね13世紀代と考えられる。

溝１号（Ⅰ地区　SD1001）（第330図）

Ⅰ－１区南部，ｔ２～４グリッドに位置する。検出長10.7m幅52cm深度８cmを測り，主軸はN86°Eを向く，直線的に延びる溝である。断面は浅いレンズ状で，埋土は１層である。底面は西に向けて下がる。SD1002～1004とともに屋敷地区画を形成した溝と考えられる。遺物は土師質土器片・鍋・土錘，瓦器椀が出土。遺構の年代は，出土遺物に恵まれないものの瓦器椀の出土から概ね13世紀頃と考えられる。

溝２・３・４号（Ⅰ地区　SD1002・1003・1004）（第331図）

Ⅰ－１区南部，ｔ・ａ２～７グリッドに位置する，検出長22.2m幅332cm深度42cmを測り，主軸はN89°Eを向く，直線的に延びる溝である。検出当初，１条の溝と捉えていたが，結果的に並行する３条の溝であることが判明した。これらの溝は屋敷地南側の区画を形成したと考えられる。

SD1002は検出長20.2m幅130cm 深度42cm を測り，主軸はN75°Eを向く。断面は逆台形状で，埋土は2層に分層できる。SD1003は検出長10.9m幅71cm 深度14cm を測り，主軸はN89°Eを向く。断面は浅い船底形で，埋土は1層である。SD1004は検出長22.2m幅170cm 深度34cm を測り，主軸はN89°Eを向く。断面は逆台形状で，埋土は2層に分層できる。

遺物は3条台わせて記述する。土師質土器片・皿（回転糸切り）・杯（回転糸切りほか）・鍋・羽釜・上錘，瓦器椀，瓦質土器羽釜，須恵質土器貯蔵具（格子タタキほか）・捏鉢，青磁碗（蓮弁文），白磁碗（玉縁口縁），常滑陶器片備前陶器片，焼土ブロック，鉄釘が出土。

792～794は土師質土器皿。回転台成形で，793・794は底部外面に回転糸切り痕を残す。793は胎土にチャートとみられる粒子を含む。795～797は土師質土器杯。回転台成形で，796・797は底部外面に回転糸切り痕を残し，797は板目痕を伴う。

798・799は瓦器椀。798は口径12.9cm を測り，体部内面に粗い横位のヘラミガキ，底部内面渦結輪状ヘラミガキ暗文を施す。炭素吸着はやや不良である。紀伊型瓦器椀とみられ，和泉型瓦器Ⅳ－1～2期併行，13世紀中葉～後葉の年代が与えられる。799は口径11.8cm の小型品で，無高台である。底部内面に粗い横位のヘラミガキを施す。炭素吸着はやや不良である。和泉型瓦器椀Ⅳ－3期に相当し，13世紀末～14世紀初頭の年代が与えられる。

800は玉縁状口縁をもつ白磁碗。大宰府分類の白磁碗Ⅳ類に相当し，11世紀後半～12世紀前半の年代が与えられる。801は青磁碗。体部外面にヘラ片彫によって鏑を省略した蓮弁文を施文する。大宰府分類の龍泉窯系青磁碗Ⅰ－5a類に相当し，13世紀初頭～前半の年代が与えられる。

802は東播系の須恵質土器捏鉢。口縁～体部上端まで肥厚する。口縁に重焼による炭素が付着する。内面やや黒色化する。森田編年第Ⅱ期第2段階に相当し，12世紀末～13世紀初頭の年代が与えられる。803は常滑焼とみられる陶器甕。外面は板ナデのち押印文を施す。内外面に自然釉が付着する。

804は土師質土器鍔付鍋。体部外面に鍔部の剥離痕がみられる。外面に煤が付着する。紀伊型の鍔付鍋で，13～14世紀代と考えられる。805は土師質土器釜。直立する短い口縁をもつ，いわゆる茶釜形の土器である。胎土に金雲母・角閃石を含む。中世後半期。

806はSD1002と1003の間から出土した，鉄刀。全長27.9cm 刃渡り20.7cm 幅2.3cm 厚み0.3cm を測り，茎には目釘孔を有する。

遺構の年代は，出土遺物から13世紀中葉～14世紀前葉と考えられる。

溝5号（Ⅰ地区　SD1005）（第332図）

Ⅰ－1区南部，a・b 2～5グリッドに位置する。検出長14.7m幅79cm 深度44cm を測り，主軸はN80°Eを向く，直線的に延びる溝である。断面は逆台形状またはU字状で，埋土は3層に分層できる。底面は東から西へ向けて下がる。

遺物は土師質土器片・杯・皿・土錘，瓦器椀，須恵質土器甕，鉄?か，溶解炉壁，砂岩製砥石が出土。807は土師質土器皿で，底部外面に回転糸切り痕を残す。808は東播系とみられる須恵質土器甕の体部。外面に細かい平行タタキを施す。809は，東播系の須恵質土器甕。口縁端部は平坦に作り，口縁内面は強いヨコナデによって凹線状に作る。外面は頸部～底部にかけて細かい平行タタキを施す。体部内面上位は斜位のケズリ，中位以下は無文当具痕のち斜位のハケ調整を行う。口縁内面～外面は還元炎焼成であるが，体部内面は酸化炎焼成される。12世紀後半の年代とみられる。810は板状鉄製品の一部で，下